

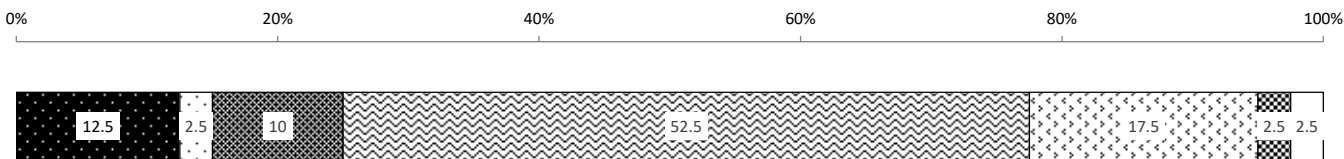
IV 調査結果の詳細【医療保険者】

1 医療保険者の概要

問1 貴保険者の概要についてお答えください。

ア. 医療保険者の種類

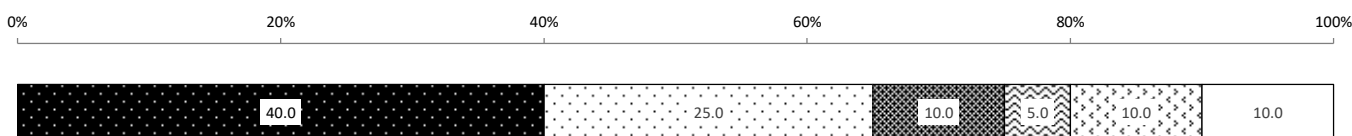
(n=40)



- 国民健康保険組合
- 全国健康保険協会 (協会けんぽ)
- 共済組合
- 組合健康保険 (健康保険組合) (単一)
- 組合健康保険 (健康保険組合) (総合)
- 組合健康保険 (健康保険組合) (連合)
- 無回答

イ. 加入事業所数

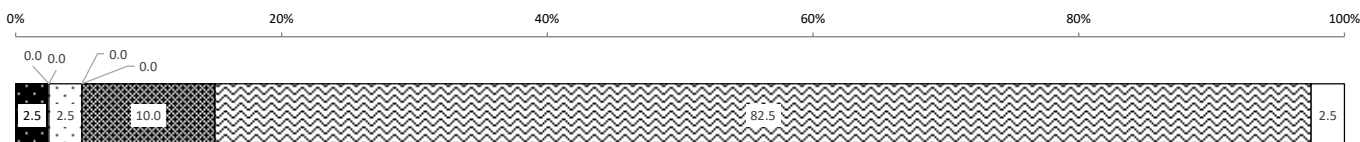
(n=40)



- 1~9
- 10~99
- 100~299
- 300~499
- 500以上
- 無回答

ウ. 被保険者規模

(n=40)



- 10人未満
- 10~19人
- 20~49人
- 50~99人
- 100~299人
- 300~499人
- 500~999人
- 1,000人以上
- 無回答

エ. 加入事業所の主たる業種 (該当すべてに○)

(n=40)

	事業所数	構成比
医療保険者数	40	100.0%
製造業	13	32.5%
卸売業,小売業	7	17.5%
金融業,保険業	7	17.5%
医療,福祉	7	17.5%
サービス業(ほかに分類されないもの)	7	17.5%
建設業	6	15.0%
運輸業,郵便業	4	10.0%
不動産業,物品賃貸業	3	7.5%
宿泊業,飲食サービス業	3	7.5%
複合サービス業	3	7.5%
電気・ガス・熱供給・水道業	2	5.0%
情報通信業	2	5.0%
学術研究,専門・技術サービス業	2	5.0%
生活関連サービス業,娯楽業	2	5.0%
教育,学習支援業	2	5.0%
農林漁業,鉱業	1	2.5%
無回答	1	2.5%

2 がん検診の実施状況

問2 貴保険者のがん検診の実施状況についてお答えください。

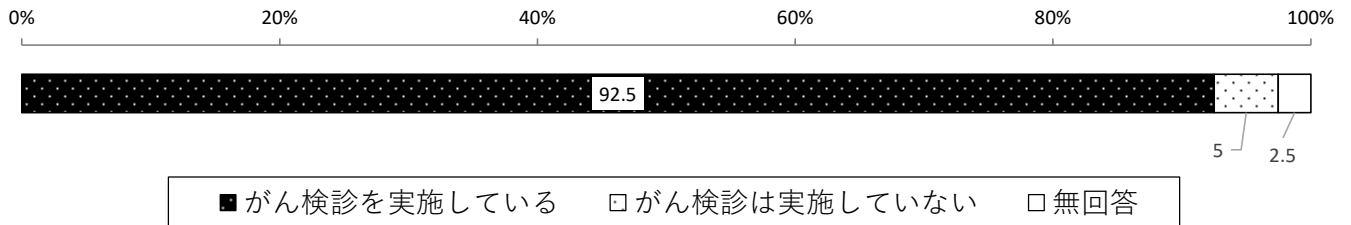
(1) がん検診実施の有無及びがん検診を受診できる加入者の範囲

【全体の傾向】

自らの医療保険の「加入者に対しがん検診を実施している」医療保険者は 92.5%。「がん検診は実施していない」とした医療保険者は 5.0%で、全体の9割以上ががん検診を実施している。

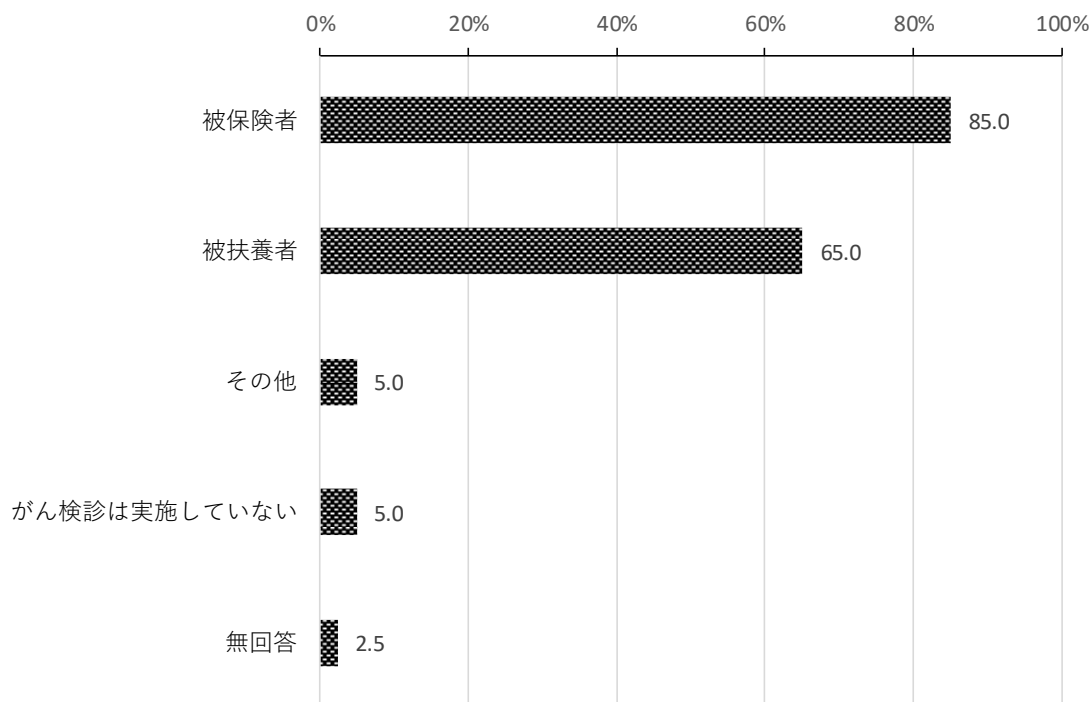
がん検診を受診できる加入者の範囲は、「被保険者」が 85.0%、「被扶養者」が 65.0%となっている。

問2 (2) より 加入者へのがん検診実施の有無※ (n=40)



※「従業員対しがん検診を実施している」は、問2 (1) において「がん検診を受診できる従業員の範囲」の「被保険者」から「その他」までに1つ以上の選択があった医療保険者数より算出。

問2 (1) 検診を受診できる従業員の範囲 (該当すべてに○) (n=40)



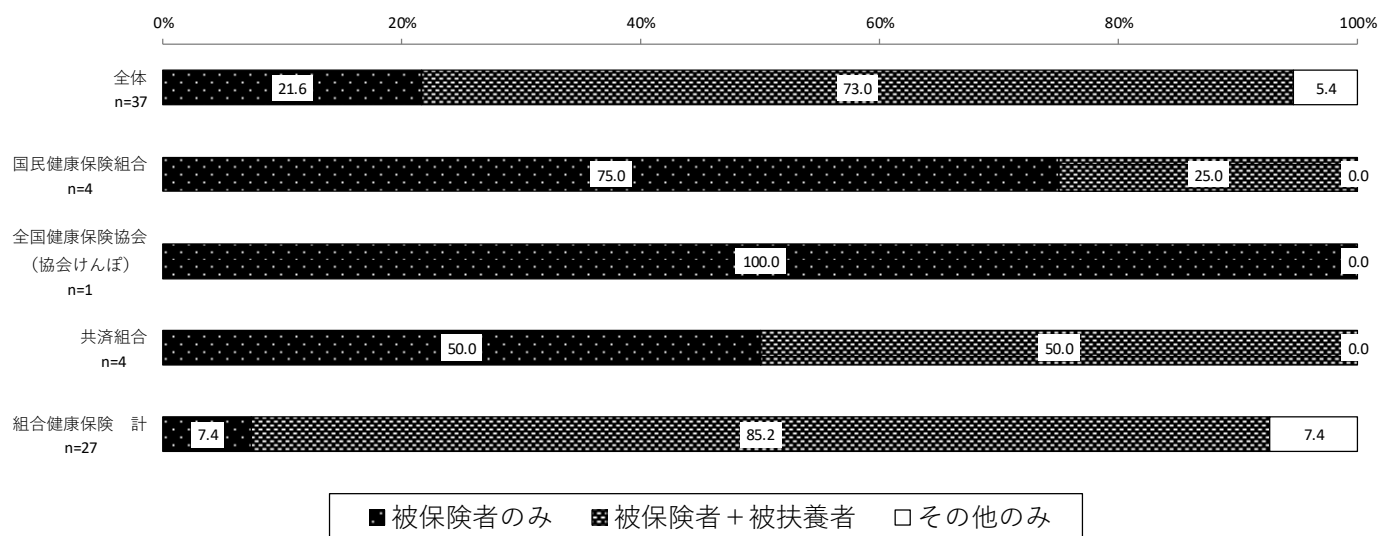
【医療保険者の種別の傾向】

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保険 者 数	医 療 保 険 者 数	がん 検 診 を 実 施 し て い る 被 保 険 者			が ん 検 診 は 実 施 し て い な い 被 保 険 者	無 回 答
			被 保 険 者	被 扶 養 者	そ の 他		
国民健康保険組合	5 100.0	4 80.0	4 80.0	1 20.0	- -	- -	1 20.0
全国健康保険協会(協会けんぽ)	1 100.0	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	- -
共済組合	4 100.0	4 100.0	4 100.0	2 50.0	- -	- -	- -
組合健康保険 計	29 100.0	27 93.1	25 86.2	23 79.3	2 6.9	2 6.9	- -
無回答	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -
合計	40 100.0	37 92.5	35 87.5	27 67.5	2 5.0	2 5.0	1 2.5

医療保険者の種別にみると、加入者に対して「がん検診を実施している」割合は、【国民健康保険組合】で 80.0%、【組合健康保険 計】で 93.1%、その他では 100.0%となっている。

【がん検診を受診できる加入者の範囲の組み合わせ（参考）】



がん検診を受診できる加入者の範囲について、組み合わせをみると、全体では「被保険者+被扶養者」が 73.0%で最も多く、次いで「被保険者のみ」が 21.6%となっている。

(2) 各がん検診の実施状況

【全体の傾向】

「がん検診を実施している」医療保険者に、各がん検診の実施状況を伺ったところ、被保険者・被扶養者ともに[大腸がん]、次に[胃がん]を「実施している」割合が高い結果となっている。

[被保険者]

問2(2) 実施状況(各がんについて、該当する1つだけに○)

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保 険 者 数	実 施 し て い る	実 施 し て い な い	無 回 答
胃がん	37 100.0	32 86.5	4 10.8	1 2.7
大腸がん	37 100.0	35 94.6	1 2.7	1 2.7
肺がん	37 100.0	31 83.8	3 8.1	3 8.1
乳がん	37 100.0	31 83.8	6 16.2	- -
子宮頸がん	37 100.0	28 75.7	8 21.6	1 2.7

被保険者では、各がん検診を「実施している」医療保険者は[子宮頸がん]が7割台、[胃がん]、[肺がん]、[乳がん]が8割台、[大腸がん]が9割台となっている。

[被扶養者]

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保険 者 数	実 施 し て い る	実 施 し て い な い	無 回 答
胃がん	37 100.0	24 64.9	9 24.3	4 10.8
大腸がん	37 100.0	26 70.3	7 18.9	4 10.8
肺がん	37 100.0	23 62.2	10 27.0	4 10.8
乳がん	37 100.0	23 62.2	10 27.0	4 10.8
子宮頸がん	37 100.0	23 62.2	10 27.0	4 10.8

被扶養者では、各がん検診を「実施している」医療保険者は [胃がん]、[肺がん]、[乳がん]、[子宮頸がん]が6割台、[大腸がん]が7割台となっている。

【医療保険者の種別の傾向】

[被保険者]

上段:件数、下段:構成比(%)

		医療 保 険 者 数	実 施 し て い る	実 施 し て い な い	無 回 答
胃 が ん	国民健康保険組合	4 100.0	3 75.0	1 25.0	- -
	全国健康保険協会(協会けんぽ)	1 100.0	1 100.0	- -	- -
	共済組合	4 100.0	4 100.0	- -	- -
	組合健康保険 計	27 100.0	23 85.2	3 11.1	1 3.7
	無回答	1 100.0	1 100.0	- -	- -
大 腸 が ん	国民健康保険組合	4 100.0	4 100.0	- -	- -
	全国健康保険協会(協会けんぽ)	1 100.0	1 100.0	- -	- -
	共済組合	4 100.0	4 100.0	- -	- -
	組合健康保険 計	27 100.0	25 92.6	1 3.7	1 3.7
	無回答	1 100.0	1 100.0	- -	- -
肺 が ん	国民健康保険組合	4 100.0	4 100.0	- -	- -
	全国健康保険協会(協会けんぽ)	1 100.0	1 100.0	- -	- -
	共済組合	4 100.0	3 75.0	- -	1 25.0
	組合健康保険 計	27 100.0	22 81.5	3 11.1	2 7.4
	無回答	1 100.0	1 100.0	- -	- -
乳 が ん	国民健康保険組合	4 100.0	3 75.0	1 25.0	- -
	全国健康保険協会(協会けんぽ)	1 100.0	1 100.0	- -	- -
	共済組合	4 100.0	4 100.0	- -	- -
	組合健康保険 計	27 100.0	22 81.5	5 18.5	- -
	無回答	1 100.0	1 100.0	- -	- -
子 宮 頸 が ん	国民健康保険組合	4 100.0	3 75.0	1 25.0	- -
	全国健康保険協会(協会けんぽ)	1 100.0	1 100.0	- -	- -
	共済組合	4 100.0	4 100.0	- -	- -
	組合健康保険 計	27 100.0	19 70.4	7 25.9	1 3.7
	無回答	1 100.0	1 100.0	- -	- -

被保険者での状況を医療保険者の種別にみると、各がん検診を「実施している」医療保険者は、医療保険者の種別にかかわらず7割を超えている。また、サンプル数は少ないが、【全国健康保険協会(協会けんぽ)】や【共済組合】では肺がんを除いてがん検診を「実施している」割合が100%となっている。

[被扶養者]

上段:件数、下段:構成比(%)

		医療 保 険 者 数	実 施 し て い る	実 施 し て い な い	無 回 答
胃 が ん	国民健康保険組合	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0
	全国健康保険協会(協会けんぽ)	1 100.0	-	1 100.0	-
	共済組合	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0
	組合健康保険 計	27 100.0	20 74.1	6 22.2	1 3.7
	無回答	1 100.0	1 100.0	-	-
大 腸 が ん	国民健康保険組合	4 100.0	2 50.0	-	2 50.0
	全国健康保険協会(協会けんぽ)	1 100.0	-	1 100.0	-
	共済組合	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0
	組合健康保険 計	27 100.0	21 77.8	5 18.5	1 3.7
	無回答	1 100.0	1 100.0	-	-
肺 が ん	国民健康保険組合	4 100.0	2 50.0	-	2 50.0
	全国健康保険協会(協会けんぽ)	1 100.0	-	1 100.0	-
	共済組合	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0
	組合健康保険 計	27 100.0	18 66.7	8 29.6	1 3.7
	無回答	1 100.0	1 100.0	-	-
乳 が ん	国民健康保険組合	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0
	全国健康保険協会(協会けんぽ)	1 100.0	-	1 100.0	-
	共済組合	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0
	組合健康保険 計	27 100.0	20 74.1	6 22.2	1 3.7
	無回答	1 100.0	1 100.0	-	-
子 宮 頸 が ん	国民健康保険組合	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0
	全国健康保険協会(協会けんぽ)	1 100.0	-	1 100.0	-
	共済組合	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0
	組合健康保険 計	27 100.0	20 74.1	6 22.2	1 3.7
	無回答	1 100.0	1 100.0	-	-

被扶養者での状況を医療保険者の種別にみると、がん検診を「実施している」医療保険者の割合は、【組合健康保険 計】において最も高く、6割以上となっている。

(2-1) (参考) 実施しているがんの組み合わせ

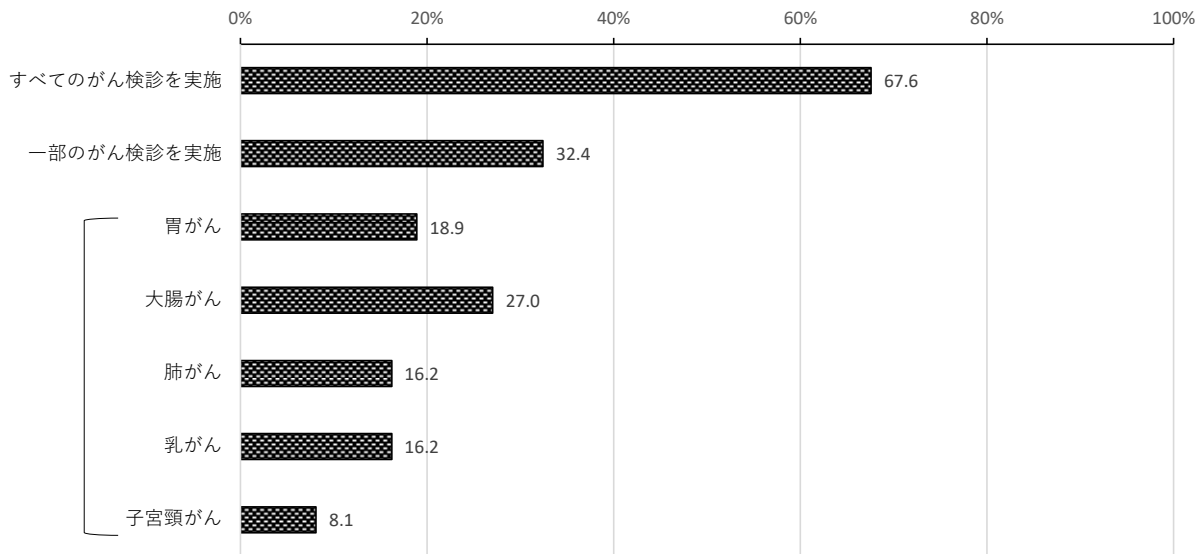
【全体の傾向】

がん検診を実施している医療保険者における、がん検診の組み合わせをみると、被保険者・被扶養者ともに、「すべてのがん検診を実施」がそれぞれ 67.6%、71.4%と約7割となっている。

「一部のがん検診を実施」している場合のがん検診の種類は、被保険者・被扶養者ともに [大腸がん] がそれぞれ 27.0%、21.4%で最も多く、次いで [胃がん] がそれぞれ18.9%、14.3%となっている。一方、被保険者に [子宮頸がん] を実施している医療保険者は1割未満となっている。

【被保険者】

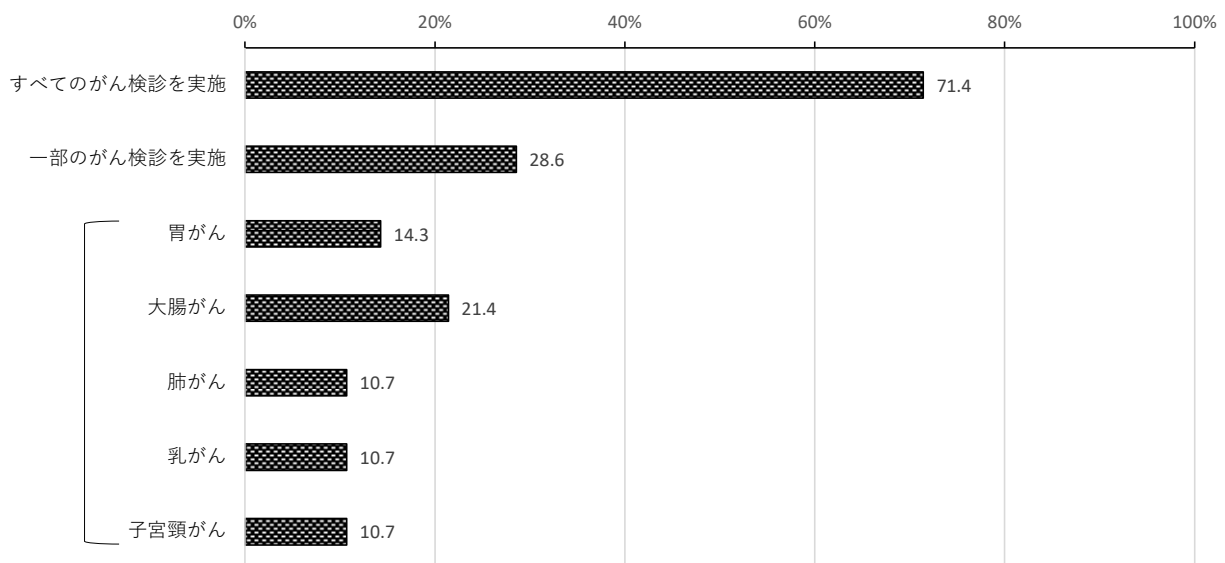
問2 (2-2) 実施しているがん検診の組み合わせ (n=37)



※すべての割合の算出において、(n=37) を母数としている。

【被扶養者】

問2 (2-2) 実施しているがん検診の組み合わせ (n=28)



※すべての割合の算出において、(n=28) を母数としている。

【医療保険者の種別の傾向】

[被保険者]

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保険 者 数	す べ て の が ん 検 診 を 実 施	一 部 の が ん 検 診 を 実 施	胃	大	肺	乳	子
				が ん	腸 が ん	が ん	が ん	宮 頸 が ん
国民健康保険組合	4 100.0	3 75.0	1 25.0	- -	1 25.0	1 25.0	- -	- -
全国健康保険協会 (協会けんぽ)	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -
共済組合	4 100.0	3 75.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	- -	1 25.0	1 25.0
組合健康保険 計	27 100.0	17 63.0	10 37.0	6 22.2	8 29.6	5 18.5	5 18.5	2 7.4
無回答	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -

[被扶養者]

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保険 者 数	す べ て の が ん 検 診 を 実 施	一 部 の が ん 検 診 を 実 施	胃	大	肺	乳	子
				が ん	腸 が ん	が ん	が ん	宮 頸 が ん
国民健康保険組合	2 100.0	1 50.0	1 50.0	- -	1 50.0	1 50.0	- -	- -
全国健康保険協会 (協会けんぽ)	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
共済組合	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	- -	- -
組合健康保険 計	23 100.0	17 73.9	6 26.1	3 13.0	4 17.4	1 4.3	3 13.0	3 13.0
無回答	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -

医療保険者の種別で見ると、被保険者・被扶養者ともに、「すべてのがん検診を実施」している割合が「一部のがん検診を実施」している割合を、上回っているか同程度であるという傾向がある。

(3) ①がん検診実施方法

【全体の傾向】

被保険者・被扶養者とも、5つのがんすべてにおいて「他の健康診断等と同時実施」が多く、7～9割台となっている。「がん検診単独実施」は[乳がん]、[子宮頸がん]で2割台となっている。

[被保険者]

問2(3)①実施方法(各がんについて、該当するすべてに○)

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保 険 者 数	が ん 検 診 単 独 実 施	他の健康診断等と同時実施			無 回 答
			が ん 検 診 と 同 時 実 施	特 定 検 診 と 同 時 実 施	そ の 他 の 健 康 診 断 等 と 同 時 実 施	
胃がん	32 100.0	3 9.4	1 3.1	14 43.8	19 59.4	- -
大腸がん	35 100.0	6 17.1	1 2.9	14 40.0	20 57.1	- -
肺がん	31 100.0	1 3.2	1 3.2	14 45.2	21 67.7	- -
乳がん	31 100.0	8 25.8	1 3.2	11 35.5	19 61.3	- -
子宮頸がん	28 100.0	8 28.6	1 3.6	10 35.7	17 60.7	- -

[被扶養者]

問2(3)①実施方法(各がんについて、該当するすべてに○)

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保 険 者 数	が ん 検 診 単 独 実 施	他の健康診断等と同時実施			無 回 答
			が ん 検 診 と 同 時 実 施	特 定 検 診 と 同 時 実 施	そ の 他 の 健 康 診 断 等 と 同 時 実 施	
胃がん	24 100.0	- -	1 4.2	14 58.3	13 54.2	9 37.5
大腸がん	26 100.0	3 11.5	1 3.8	14 53.8	13 50.0	- -
肺がん	23 100.0	- -	1 4.3	13 56.5	14 60.9	- -
乳がん	23 100.0	5 21.7	1 4.3	10 43.5	14 60.9	- -
子宮頸がん	23 100.0	6 26.1	1 4.3	9 39.1	14 60.9	- -

(3) ②がん検診の費用負担の状況

【全体の傾向】

各がん検診の費用負担の状況は、被保険者の〔大腸がん〕を除いて「一部受診者負担（医療保険者や事業所からの助成）」が最も多い。被保険者の〔大腸がん〕では「受診者自己負担なし」が54.3%と最も多くなっている。

〔被保険者〕

問2(3)②費用負担の状況（各がんについて、該当する1つだけに○）

	医療 保 険 者 数	受 診 者 自 己 負 担 な し	一 部 受 診 者 負 担	全 額 受 診 者 負 担	無 回 答
胃がん	32 100.0	13 40.6	19 59.4	1 3.1	- -
大腸がん	35 100.0	19 54.3	17 48.6	1 2.9	- -
肺がん	31 100.0	14 45.2	17 54.8	1 3.2	- -
乳がん	31 100.0	11 35.5	19 61.3	2 6.5	1 3.2
子宮頸がん	28 100.0	8 28.6	19 67.9	2 7.1	1 3.6

〔被扶養者〕

問2(3)②費用負担の状況（各がんについて、該当する1つだけに○）

	医療 保 険 者 数	受 診 者 自 己 負 担 な し	一 部 受 診 者 負 担	全 額 受 診 者 負 担	無 回 答
胃がん	24 100.0	6 25.0	18 75.0	1 4.2	- -
大腸がん	26 100.0	10 38.5	17 65.4	1 3.8	- -
肺がん	23 100.0	7 30.4	16 69.6	1 4.3	- -
乳がん	23 100.0	5 21.7	17 73.9	3 13.0	- -
子宮頸がん	23 100.0	5 21.7	17 73.9	3 13.0	- -

※設問は、単一回答を想定していたが、回答が複数回答でなされ、それらの回答を全て採択したため、各回答の割合の合計が100%を超えている場合がある。

(4) ① (実施していないがん検診について) 実施していない理由

【全体の傾向】

各がん検診を実施していない理由は、被扶養者・被保険者ともに「法律の義務付けがない」や「予算不足」の割合が高くなっている。

【被保険者】

問2 (4) ①がん検診を実施していない理由 (各がんについて、該当するすべてに○)

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保険 者 数	法 律 の 義 務 付 け が な い	予 算 不 足	他 の 主 体 で 既 に 実 施 し て い る	わ か ら な い 検 診 を ど の よ う に 実 施 す べ き か	そ の 他	無 回 答
胃がん	4 100.0	- -	2 50.0	- -	- -	2 50.0	1 25
大腸がん	1 100.0	- -	- -	- -	- -	1 100.0	- -
肺がん	3 100.0	1 33.3	2 66.7	- -	- -	1 33.3	- -
乳がん	6 100.0	- -	4 66.7	- -	- -	2 33.3	1 16.7
子宮頸がん	8 100.0	1 12.5	5 62.5	- -	1 12.5	2 25.0	1 12.5

【被扶養者】

問2 (4) ①がん検診を実施していない理由 (各がんについて、該当するすべてに○)

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保険 者 数	法 律 の 義 務 付 け が な い	予 算 不 足	他 の 主 体 で 既 に 実 施 し て い る	わ か ら な い 検 診 を ど の よ う に 実 施 す べ き か	そ の 他	無 回 答
胃がん	9 100.0	4 44.4	3 33.3	1 11.1	- -	2 22.2	1 11.1
大腸がん	7 100.0	4 57.1	1 14.3	1 14.3	- -	2 28.6	- -
肺がん	10 100.0	5 50.0	4 40.0	1 10.0	- -	2 20.0	- -
乳がん	10 100.0	4 40.0	5 50.0	1 10.0	- -	2 20.0	- -
子宮頸がん	10 100.0	4 40.0	5 50.0	1 10.0	- -	2 20.0	- -

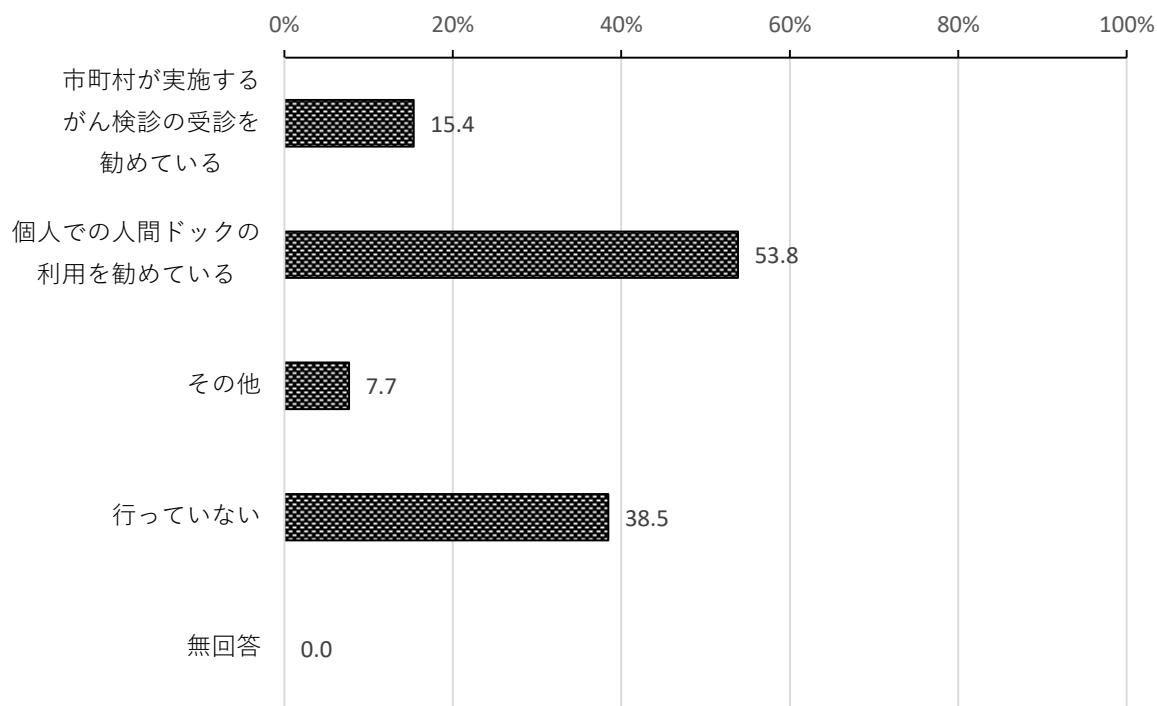
(4) ② (実施していないがん検診について) 他の機会を受診を促す取組

【全体の傾向】

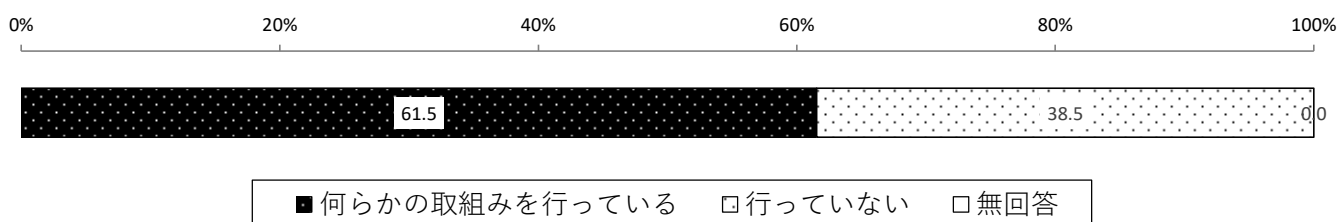
実施していないがん検診について、他の機会でのがん検診を受診を促すために、「何らかの取組みを行っている」医療保険者は 61.5%となっており、取組みを「行っていない」は 38.5%となっている。

取組みとしては「市町村が実施するがん検診の受診を勧めている」が 15.4%、「個人での人間ドックの利用を勧めている」が 53.8%となっている。

問2 (4) ②他の機会でのがん検診受診を促していますか。(該当するすべてに○) (n=13)



問2 (4) ②より 他の機会でのがん検診受診を促す取組の有無※ (n=13)



※「何らかの取組みを行っている」は、問2 (4) において「市町村が実施するがん検診の受診を勧めている」から「その他」に1つ以上の選択があった医療保険者数より算出。

3 各がん検診の検査実施方法及び受診状況

問3 貴事業所で実施した各がん検診の検査実施方法及び実施状況についてお答えください。

(1) 各がん検診の検査方法

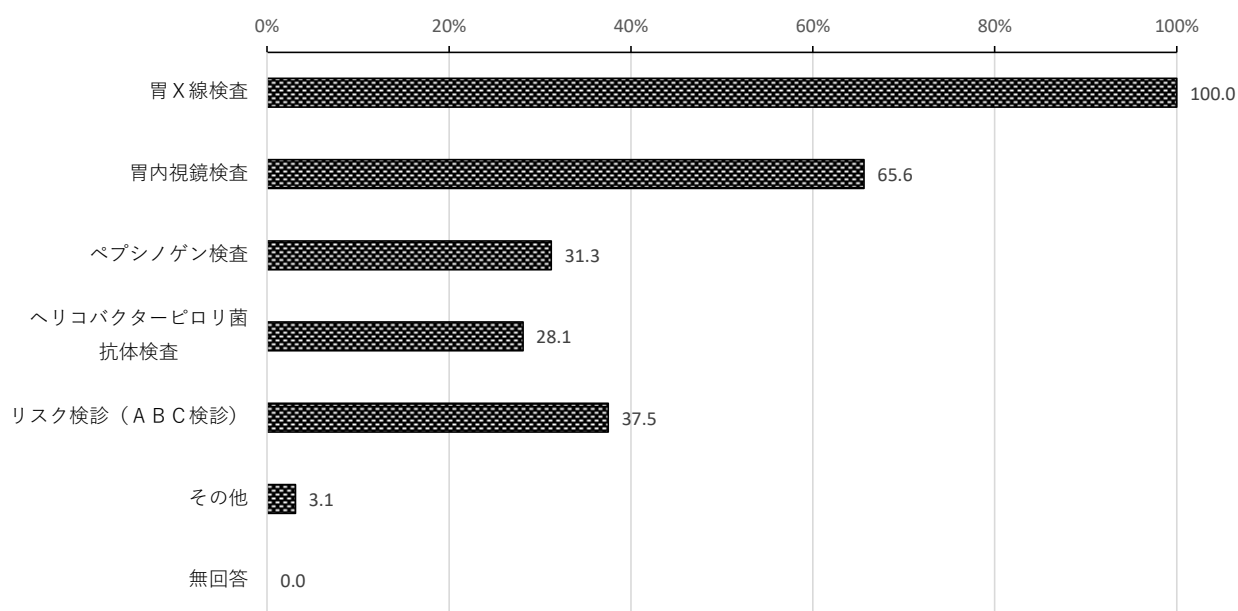
ア. 胃がん

【全体の傾向】

胃がん検診の（一次検診）の検査方法は、被保険者・被扶養者ともに「胃X線検査」がそれぞれ100.0%、95.8%で最も多くなっている。次いで、「胃内視鏡検査」がそれぞれ65.6%、70.8%となっている。

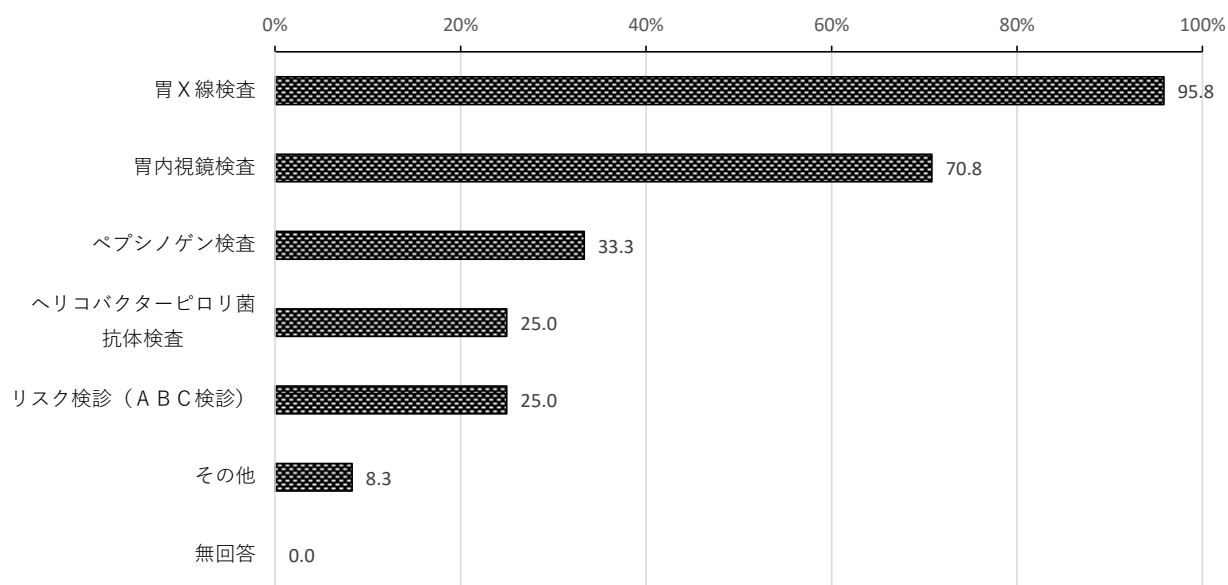
[被保険者]

問3 (1) 検診方法（一次検診） (n=32)



[被扶養者]

問3 (1) 検診方法（一次検診） (n=24)



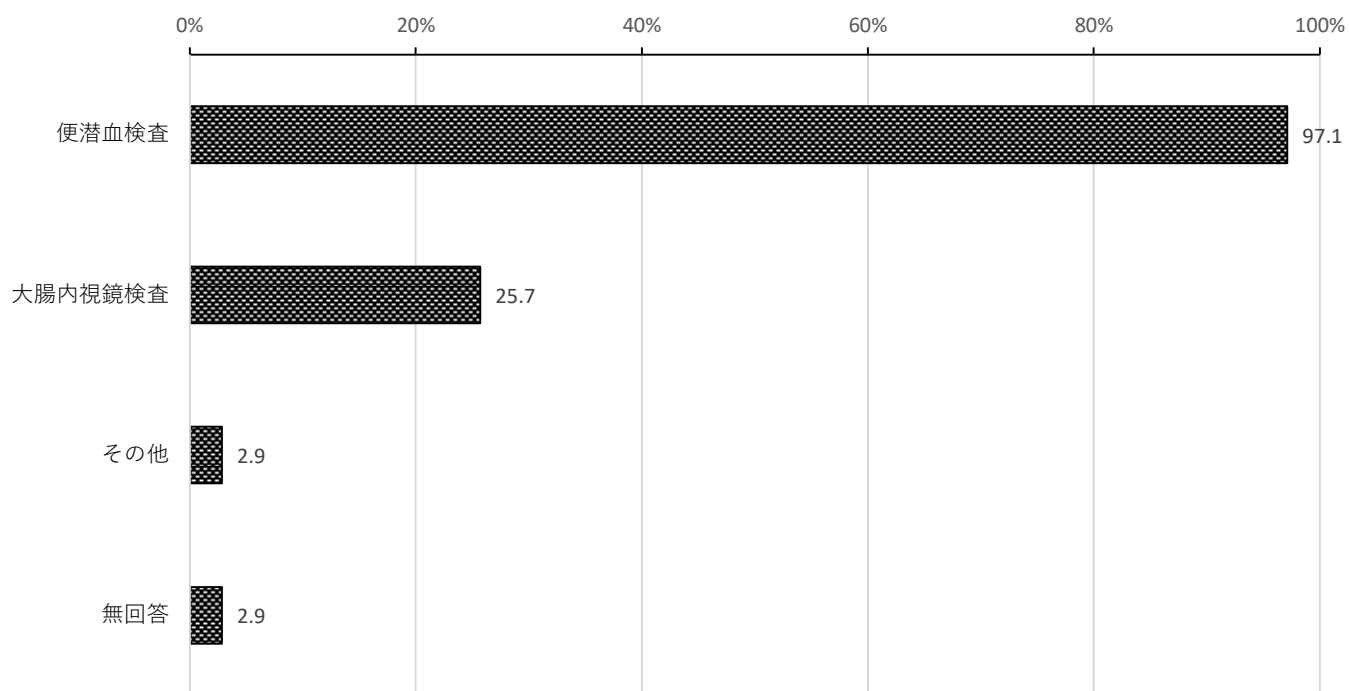
イ. 大腸がん

【全体の傾向】

大腸がん検診の（一次検診）の検査方法は、被保険者・被扶養者ともに「便潜血検査」がそれぞれ 97.1%、96.2%で最も多くなっている。

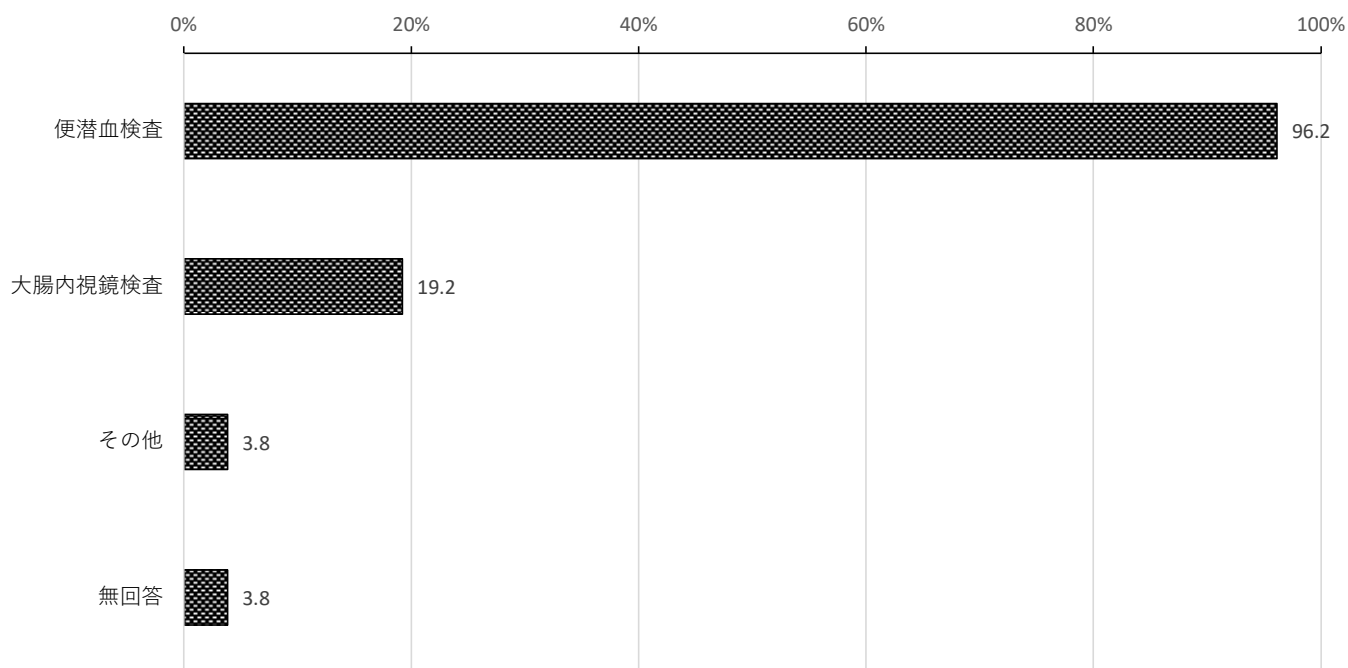
[被保険者]

問3（1）検診方法（一次検診）（n=35）



[被扶養者]

問3（1）検診方法（一次検診）（n=26）



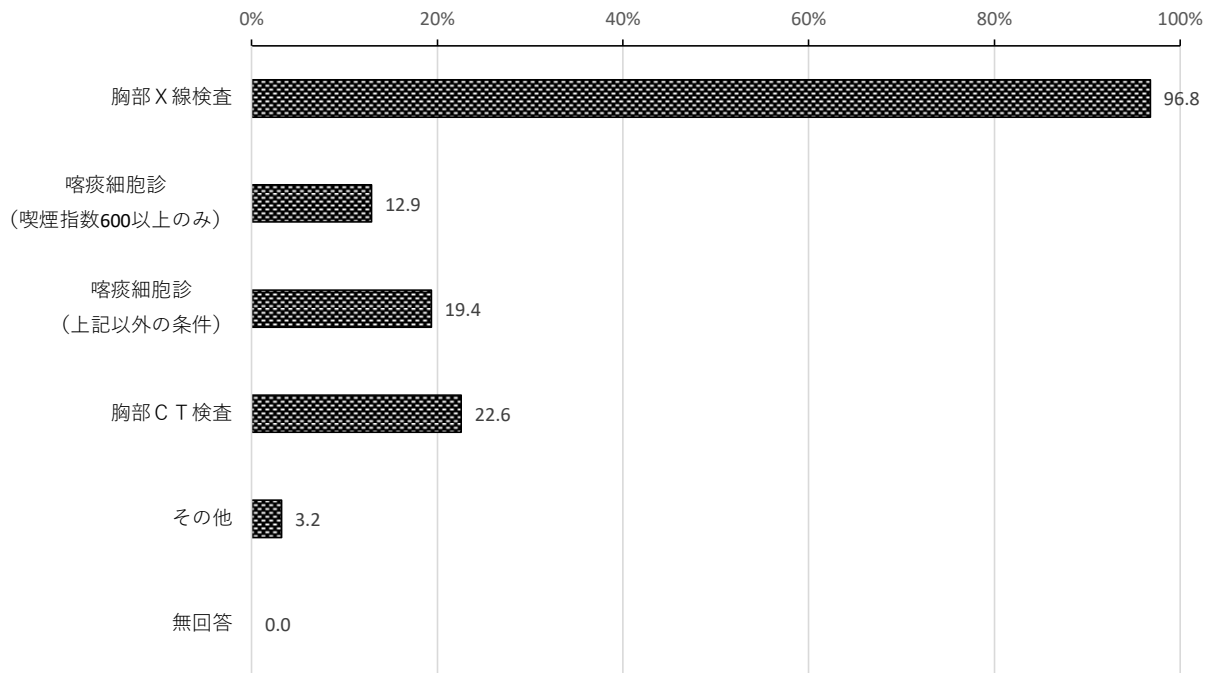
ウ. 肺がん

【全体の傾向】

肺がん検診の（一次検診）の検査方法は、被保険者・被扶養者ともに「胸部X線検査」がそれぞれ 96.8%、91.3%で最も多く、次いで「胸部CT検査」がそれぞれ 22.6%、26.1%となっている。

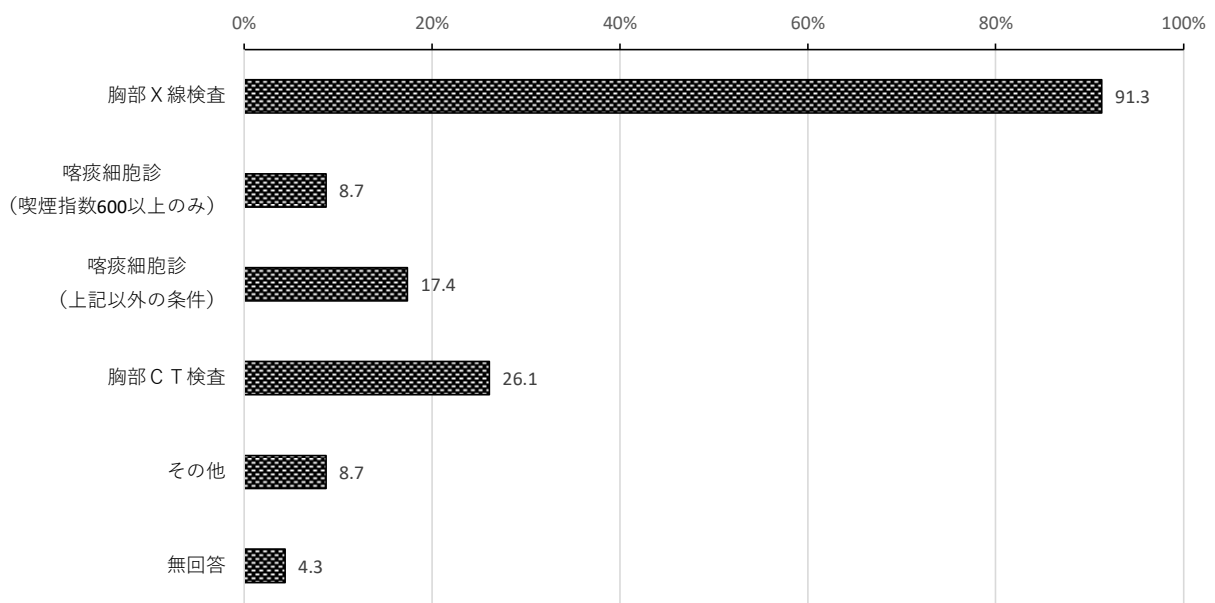
[被保険者]

問3（1）検診方法（一次検診）（n=31）



[被扶養者]

問3（1）検診方法（一次検診）（n=23）



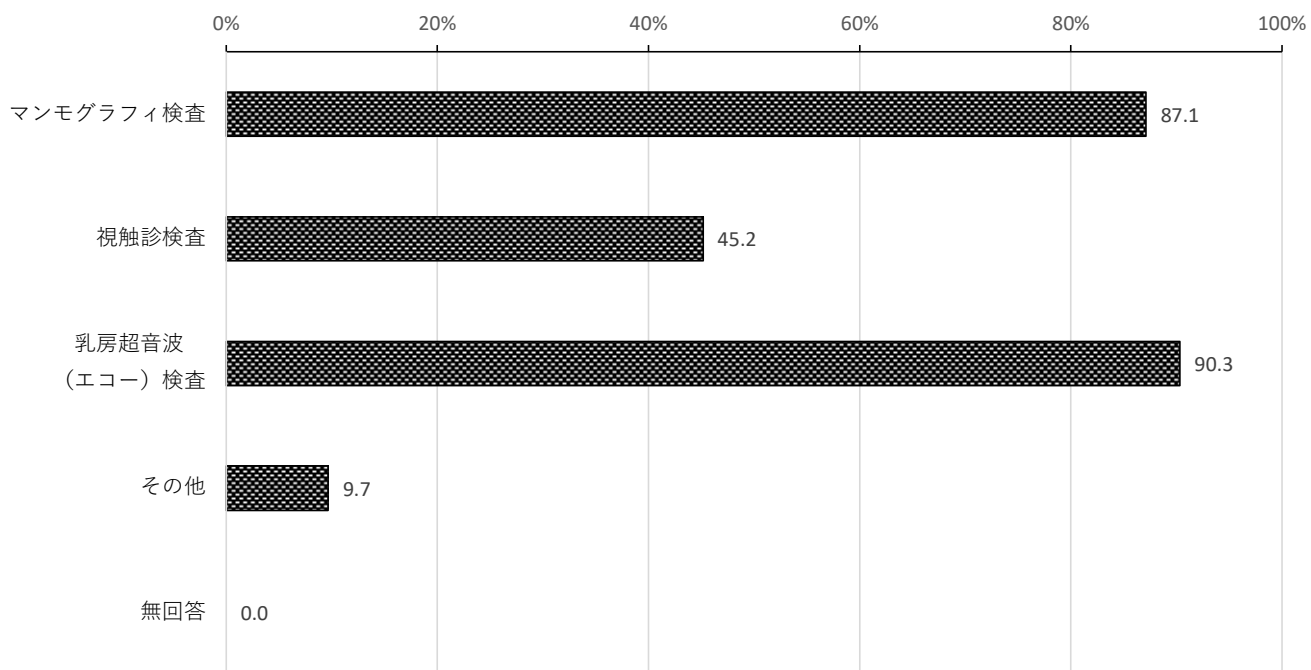
エ. 乳がん

【全体の傾向】

乳がん検診の（一次検診）の検査方法は、被保険者では「乳房超音波（エコー）検査」が90.3%と最も多い。被扶養者においては「乳房超音波（エコー）検査」と「マンモグラフィ検査」が最も多く、95.7%となっている。

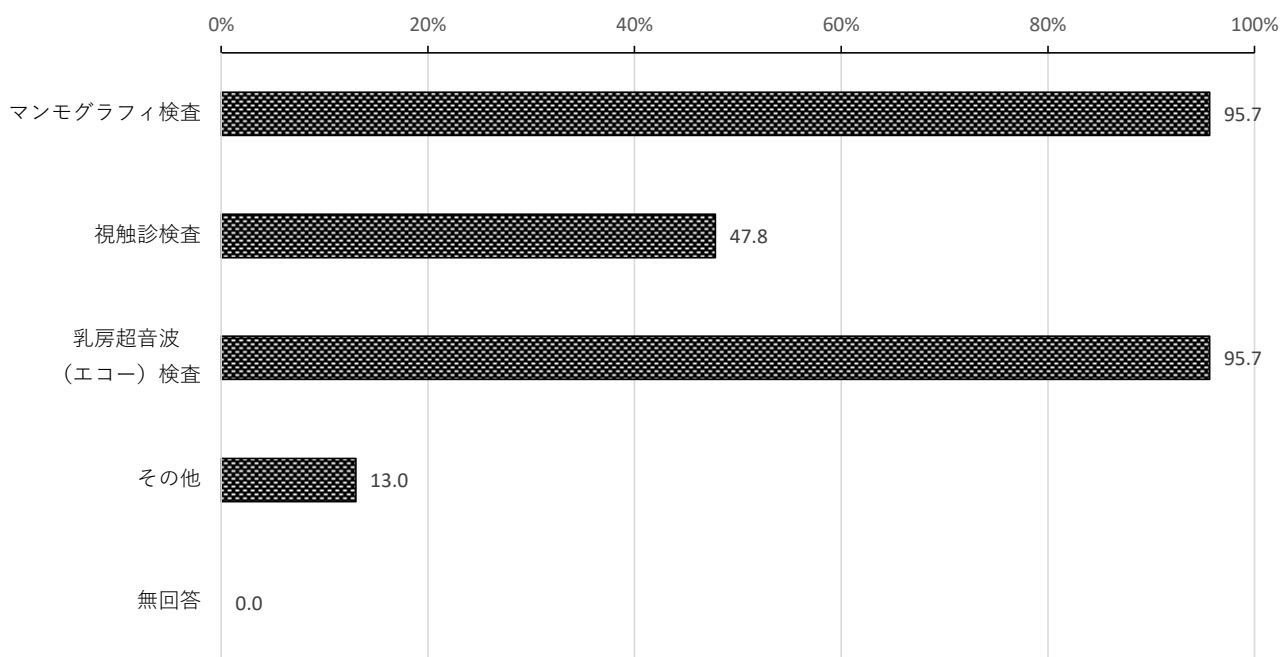
[被保険者]

問3（1）検診方法（一次検診）（n=31）



[被扶養者]

問3（1）検診方法（一次検診）（n=23）



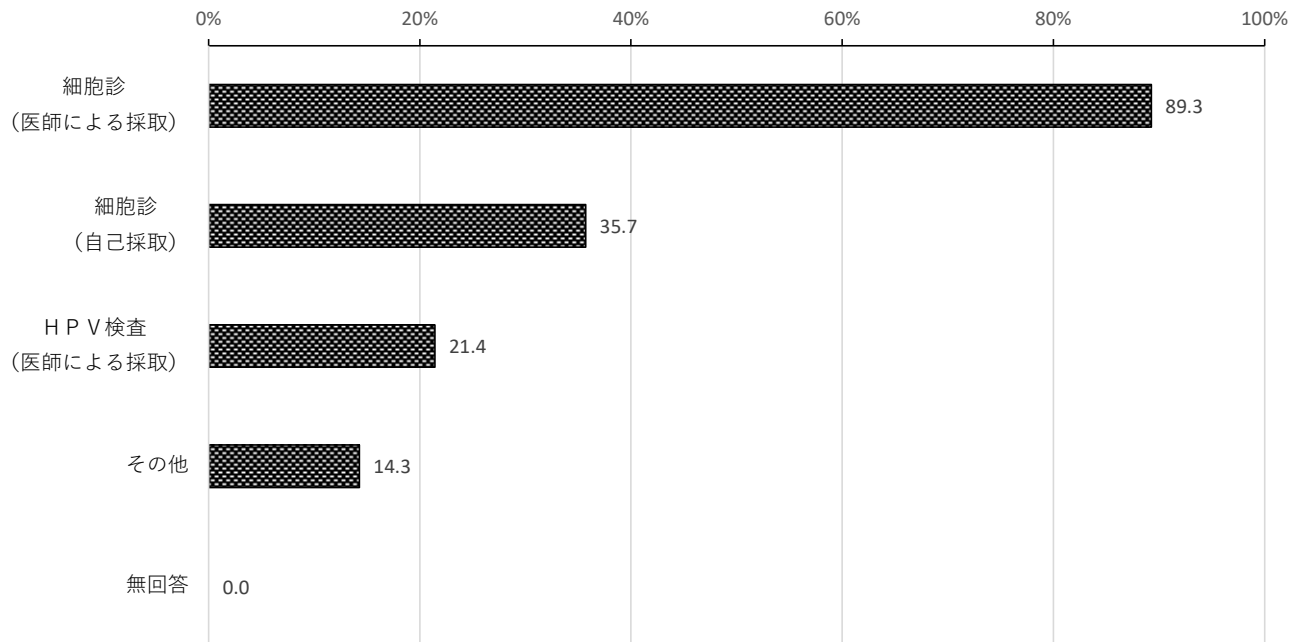
オ. 子宮頸がん

【全体の傾向】

子宮頸がん検診の（一次検診）の検査方法は、被保険者・被扶養者ともに「細胞診（医師による採取）」が最も多く、それぞれ89.3%、87.0%となっている。次いで「細胞診（自己採取）」がそれぞれ 35.7%、39.1%となっている。

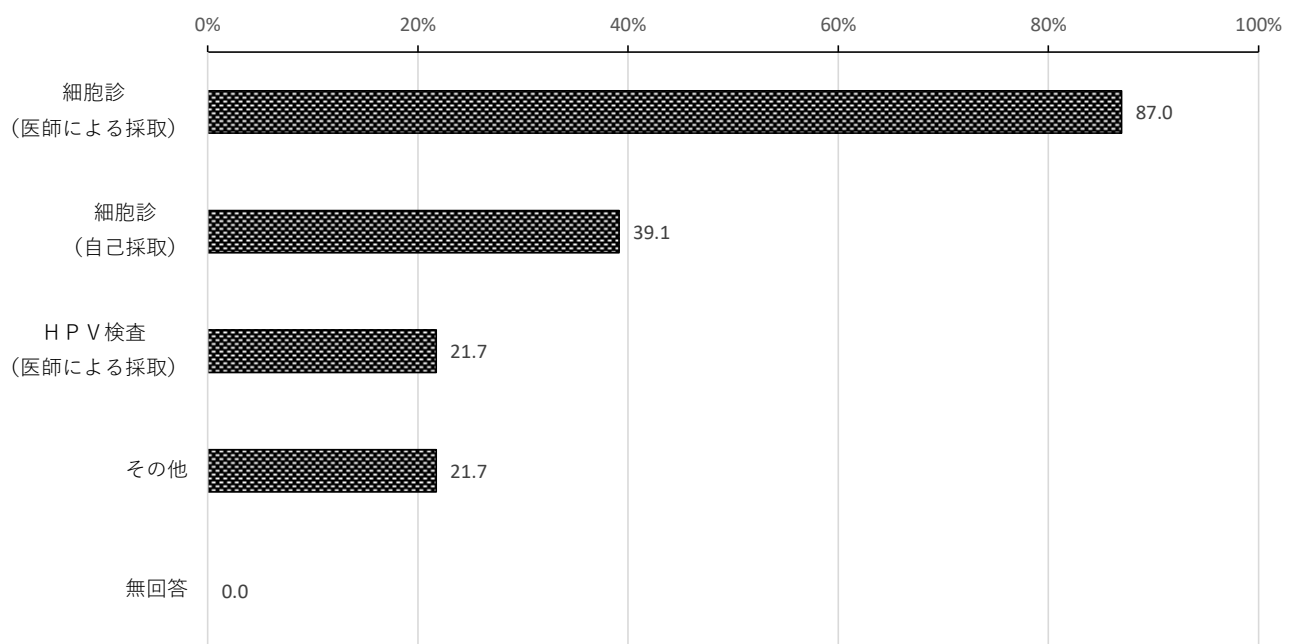
[被保険者]

問3（1）検診方法（一次検診）（n=28）



[被扶養者]

問3（1）検診方法（一次検診）（n=23）



(2) 受診対象者の決め方

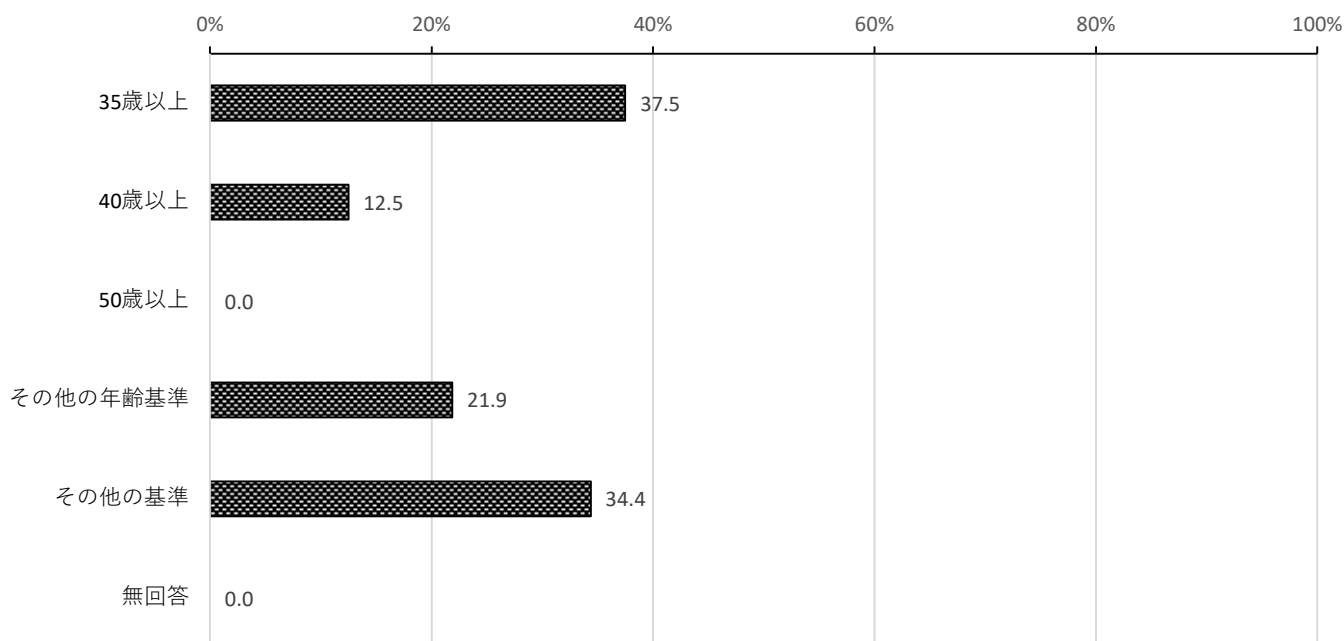
ア. 胃がん（(1) で胃X線検査または胃内視鏡検査を選択した人が対象）

【全体の傾向】

胃がん検診の受診者の決め方について、対象年齢は、被保険者・被扶養者ともに「35歳以上」がそれぞれ 37.5%、39.1%で最も多くなっている。

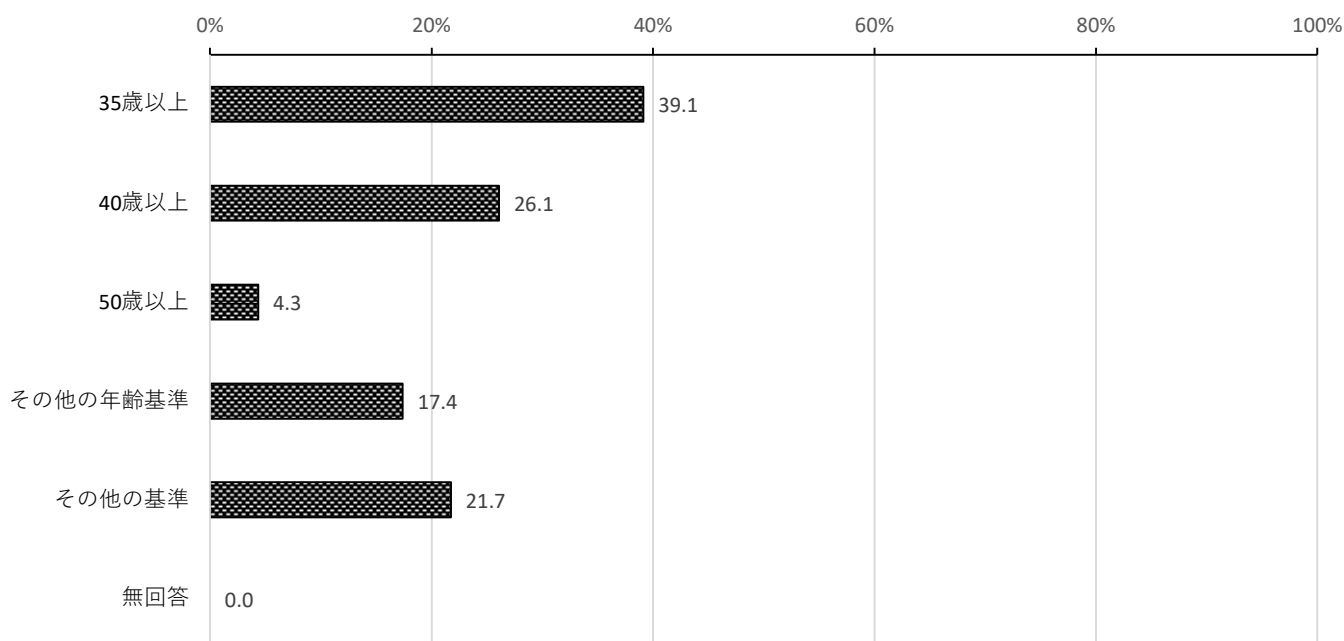
[被保険者]

問3 (2) 受診対象者の決め方 対象年齢 (n=32)



[被扶養者]

問3 (2) 受診対象者の決め方 対象年齢 (n=23)



※設問は、単一回答を想定していたが、回答が複数回答でなされ、それらの回答を全て採択したため、各回答の割合の合計が100%を超えている場合がある。

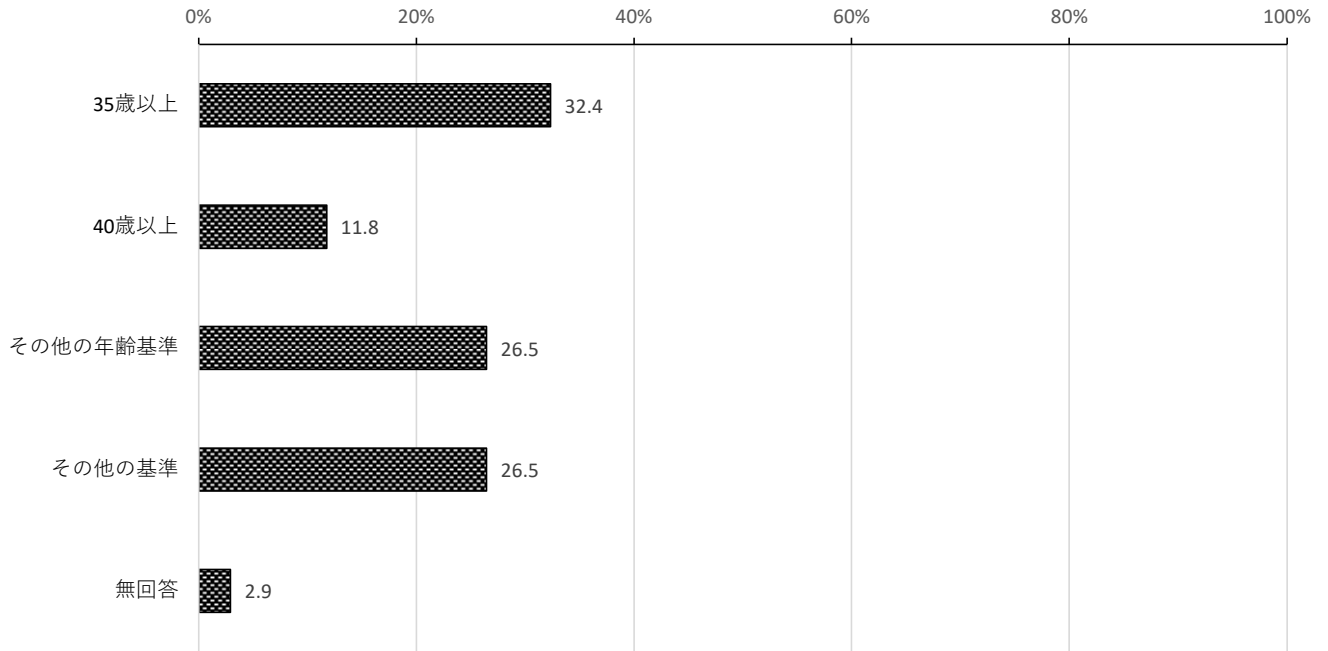
イ. 大腸がん（（１）で便潜血検査または大腸内視鏡検査を選択した人が対象）

【全体の傾向】

大腸がん検診の受診者の決め方について、対象年齢は、被保険者・被扶養者ともに「35歳以上」がそれぞれ 32.4%、32.0%で最も多くなっている。

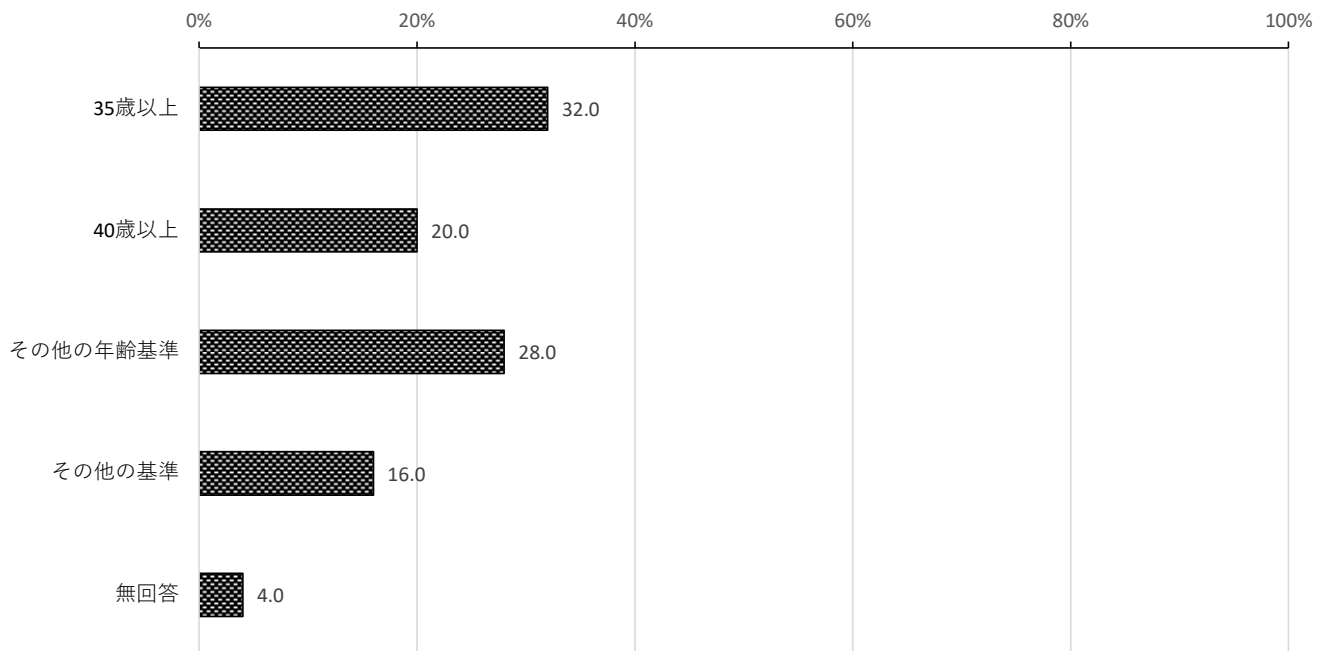
[被保険者]

問 3（２）受診対象者の決め方 対象年齢（n=34）



[被扶養者]

問 3（２）受診対象者の決め方 対象年齢（n=25）



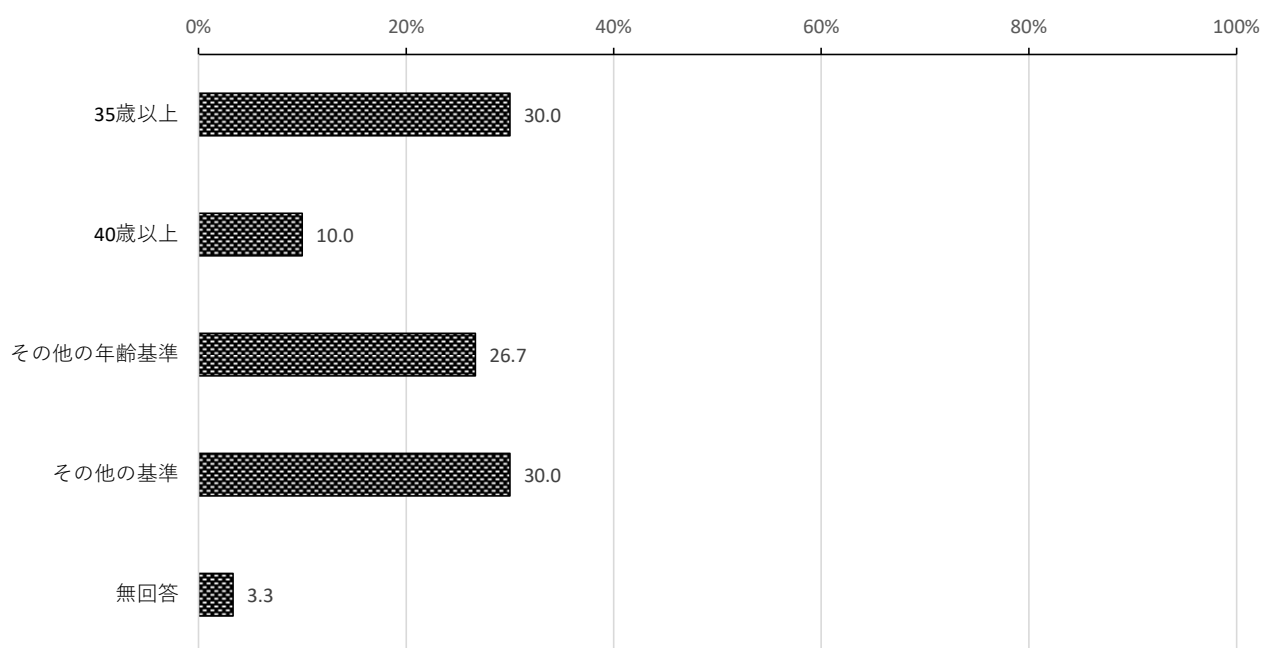
ウ. 肺がん（（１）で胸部X線検査を選択した人が対象）

【全体の傾向】

肺がん検診の受診者の決め方について、対象年齢は、被保険者では「35歳以上」と「その他の基準」が30.0%で最も多くなっており、「その他の基準」の内容としては「全員」との回答が最も多い（「その他の基準」の内訳は、P192 才）被保険者の受診対象者の決め方（問3.3（2）被保険者）を参照）。被扶養者では「35歳以上」が28.6%で最も多くなっている。

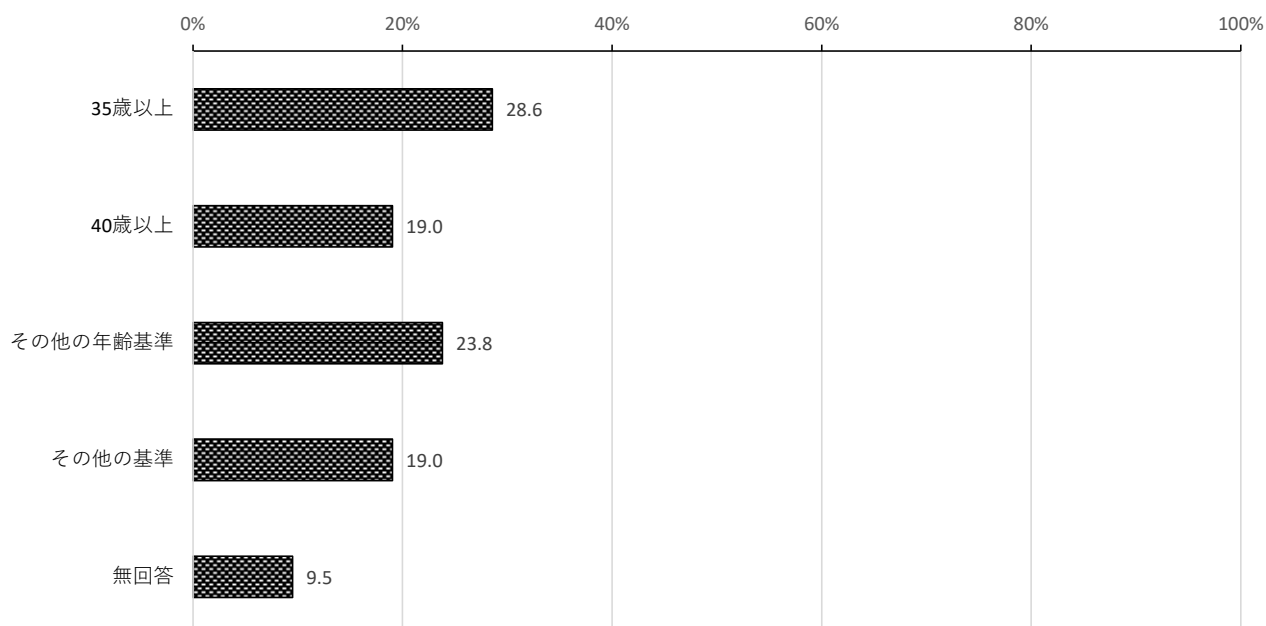
[被保険者]

問3（2）受診対象者の決め方 対象年齢（n=30）



[被扶養者]

問3（2）受診対象者の決め方 対象年齢（n=21）



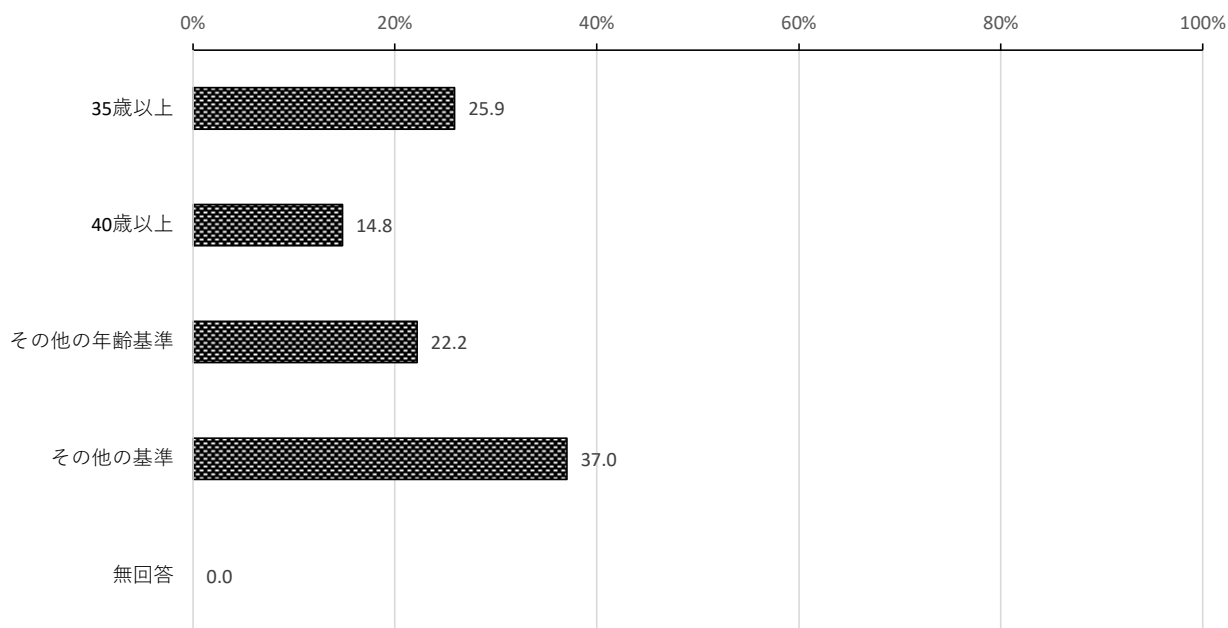
エ. 乳がん（（1）でマンモグラフィ検査を選択した人が対象）

【全体の傾向】

乳がん検診の受診者の決め方について、被保険者では「その他の基準」が37.0%で最も多くなっており、「その他の基準」の内容としては「希望者」との回答が最も多い（「その他の基準」の内訳は、P192 キ）被保険者の受診対象者の決め方（問3.4（2）被保険者）を参照）。被扶養者では「35歳以上」が36.4%で最も多い。

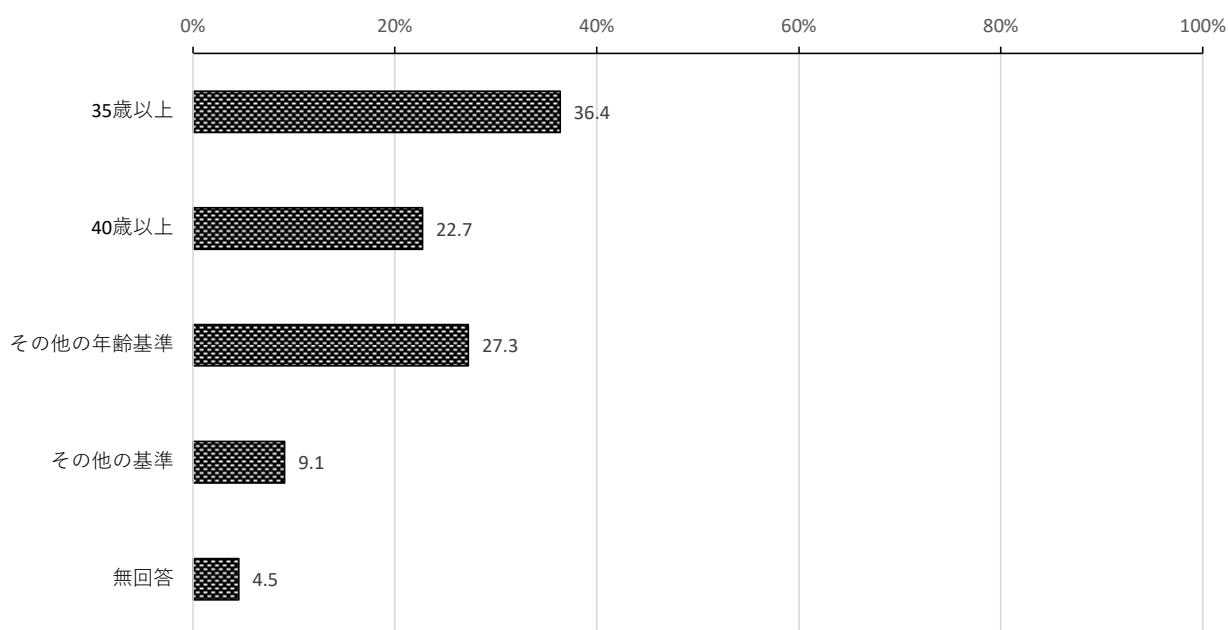
[被保険者]

問3（2）受診対象者の決め方 対象年齢（n=27）



[被扶養者]

問3（2）受診対象者の決め方 対象年齢（n=22）



オ. 子宮頸がん（（１）で細胞診（医師による採取）を選択した人が対象）

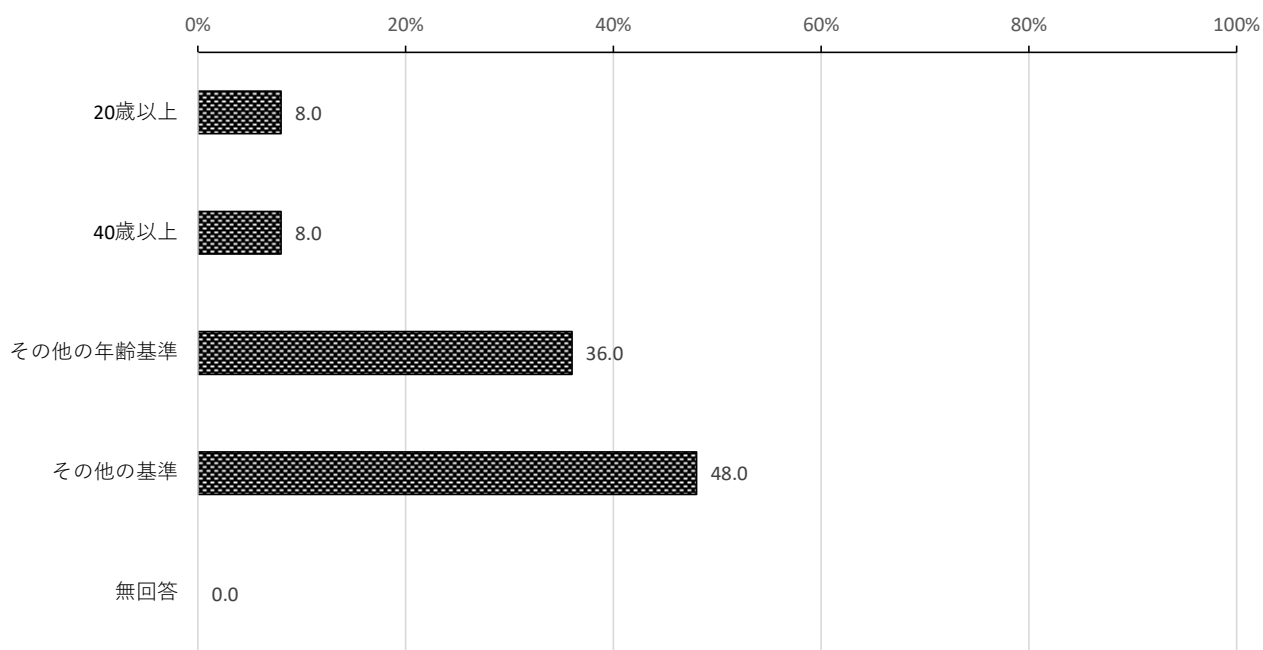
【全体の傾向】

子宮頸がん検診の受診者の決め方について、被保険者は「その他の基準」が48.0%と最も多くなっている。被保険者の「その他の基準」の内容としては「希望者」との回答が最も多い

（「その他の基準」の内訳は、P193 ケ）被保険者の受診対象者の決め方（問3.5（2）被保険者）を参照）。被扶養者は「その他の年齢基準」が50.0%と最も多くなっている。

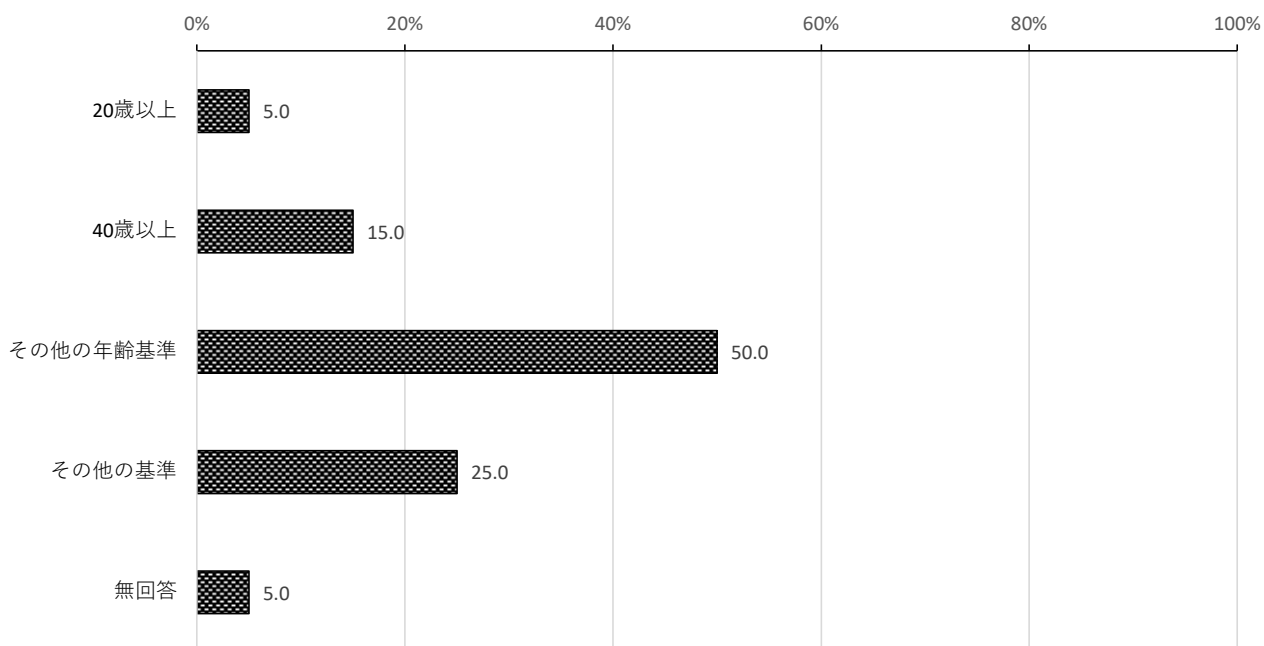
[被保険者]

問3（2）受診対象者の決め方 対象年齢（n=25）



[被扶養者]

問3（2）受診対象者の決め方 対象年齢（n=20）



(3) 検診間隔

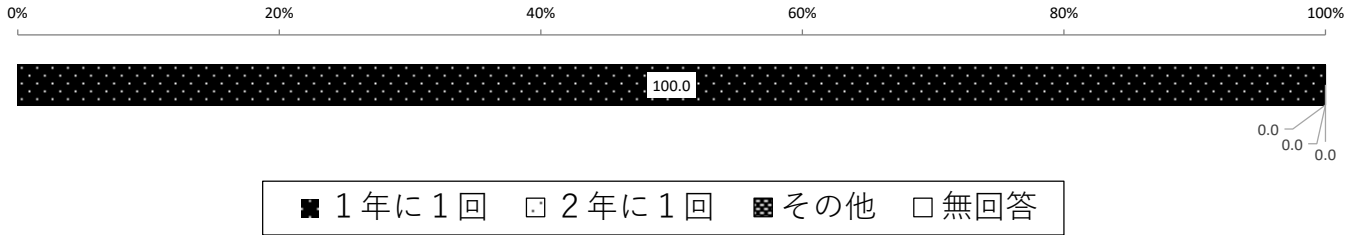
ア. 胃がん（（1）で胃X線検査または胃内視鏡検査を選択した人が対象）

【全体の傾向】

胃がん検診の検診間隔について、被保険者・被扶養者ともに「1年に1回」が100%となっている。

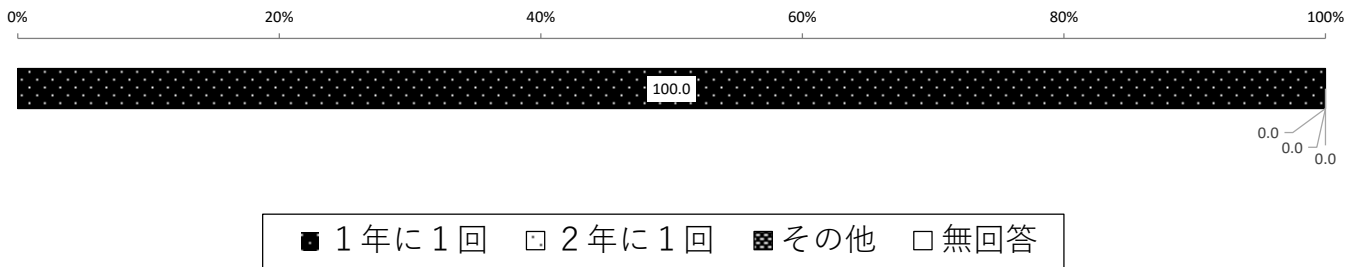
[被保険者]

問3（3）検診間隔（n=32）



[被扶養者]

問3（3）検診間隔（n=23）



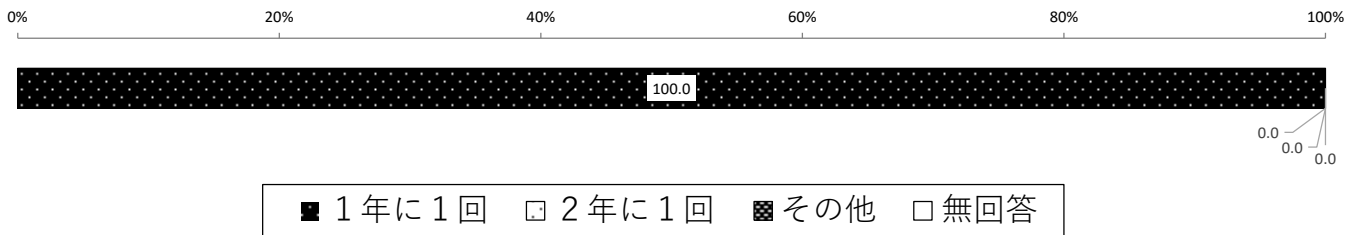
イ. 大腸がん（（１）で便潜血検査または大腸内視鏡検査を選択した人が対象）

【全体の傾向】

大腸がん検診の検診間隔について、被保険者・被扶養者ともに「1年に1回」がそれぞれ100.0%、96.0%となっている。

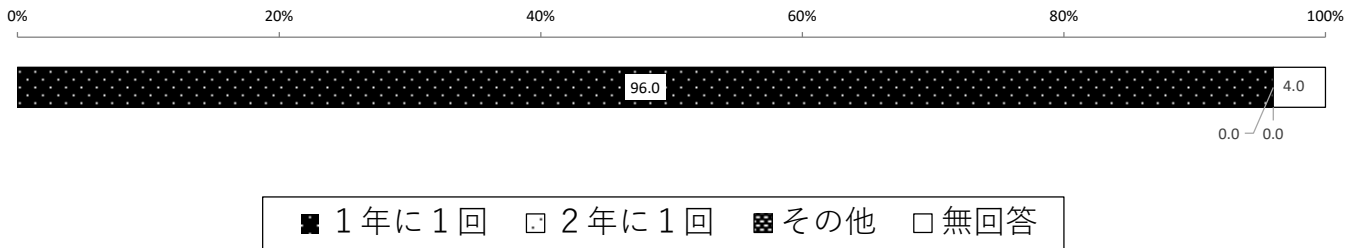
[被保険者]

問3（3）検診間隔（n=34）



[被扶養者]

問3（3）検診間隔（n=25）



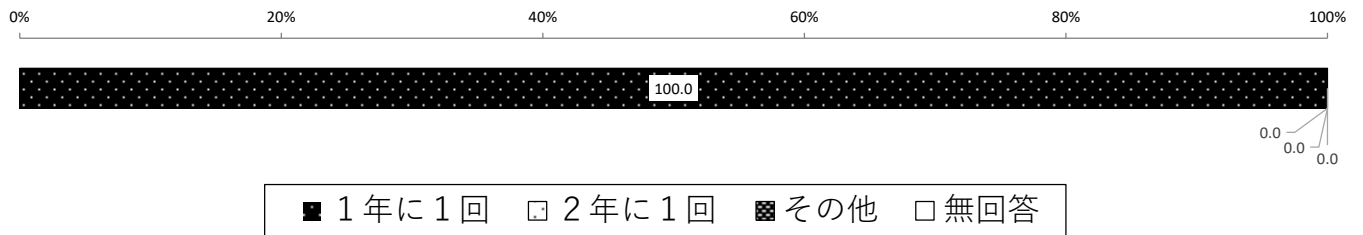
ウ. 肺がん（（1）で胸部X線検査を選択した人が対象）

【全体の傾向】

肺がん検診の検診間隔について、被保険者・被扶養者ともに「1年に1回」が100%となっている。

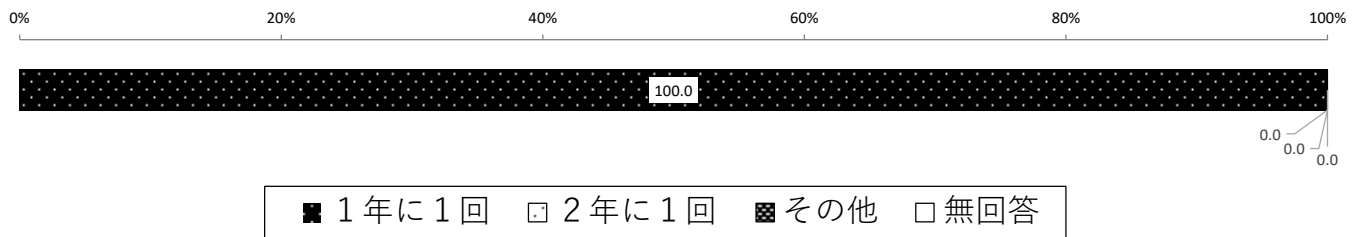
[被保険者]

問3（3）検診間隔（n=30）



[被扶養者]

問3（3）検診間隔（n=21）



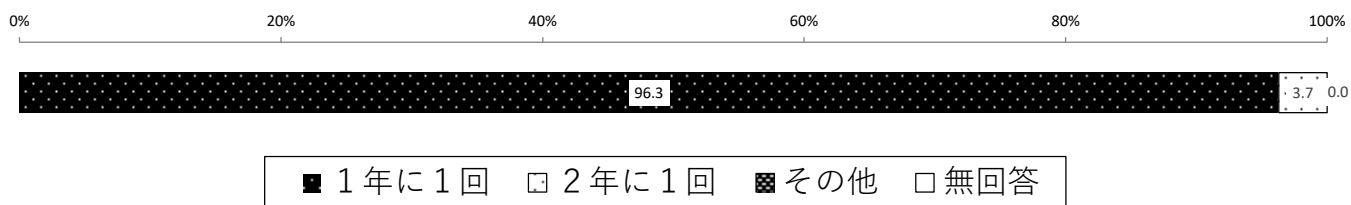
エ. 乳がん（（1）でマンモグラフィ検査を選択した人が対象）

【全体の傾向】

乳がん検診の検診間隔について、被保険者・被扶養者ともに「1年に1回」がそれぞれ96.3%、95.5%で最も多くなっている。

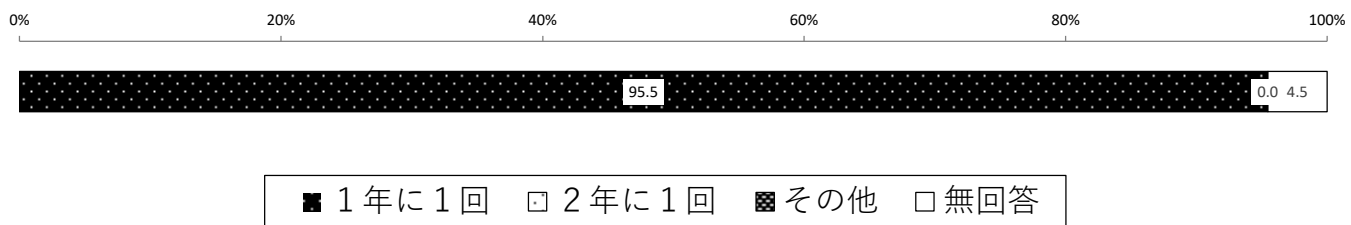
[被保険者]

問3（3）検診間隔（n=27）



[被扶養者]

問3（3）検診間隔（n=22）



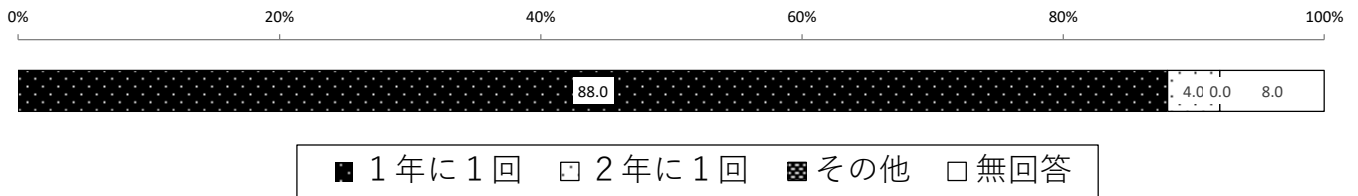
オ. 子宮頸がん（（1）で細胞診（医師による採取）を選択した人が対象）

【全体の傾向】

子宮頸がん検診の検診間隔について、被保険者・被扶養者ともに「1年に1回」がそれぞれ88.0%、90.0%で最も多くなっている。

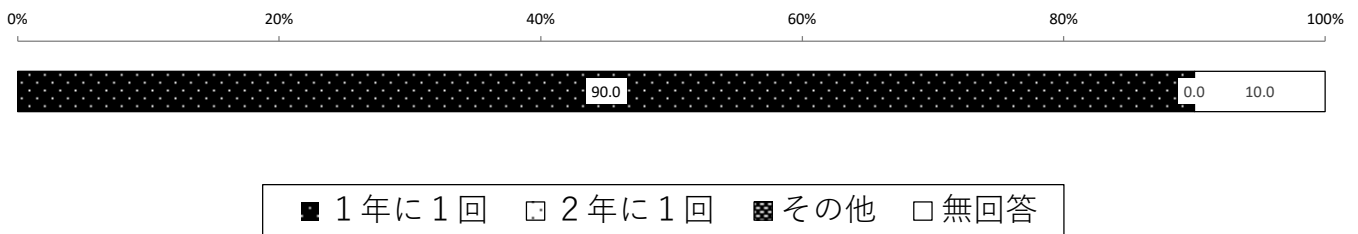
[被保険者]

問3（3）検診間隔（n=25）



[被扶養者]

問3（3）検診間隔（n=20）



(4) がん検診受診率

ア. 各医療保険者のがん検診対象者における受診率

※対象者数・受診者数双方に記載のあった医療保険者を集計対象とし、各人数の総和から算出した。なお、それぞれ無回答であった箇所は計算から除いた。また、受診者については、胃がんは胃X線検査または胃内視鏡検査を選択した人、大腸がんは便潜血検査または大腸内視鏡検査を選択した人、肺がんは胸部X線検査を選択した人、乳がんはマンモグラフィ検査を選択した人、子宮頸がんは細胞診（医師による採取）を選択した人を集計対象とした。

【全体の傾向】

各がんの医療保険者でのがん検診対象者における受診率は、被保険者では〔肺がん〕が58.2%で最も高く、次いで〔胃がん〕が55.9%となっている。被扶養者では、〔肺がん〕が41.2%で最も高く、次いで〔大腸がん〕が30.0%となっている。

一方、被扶養者の〔乳がん〕、〔子宮頸がん〕は約1割となっている。

〔被保険者〕

問3より 各医療保険者のがん検診対象者における受診率

検診の種類	医療保険者数	対象者数	受診者数	受診率
胃がん	13	477,445人	266,967人	55.9%
大腸がん	15	502,601人	278,848人	55.5%
肺がん	8	452,915人	263,732人	58.2%
乳がん	10	53,087人	19,150人	36.1%
子宮頸がん	9	49,035人	12,562人	25.6%

〔被扶養者〕

問3より 各医療保険者のがん検診対象者における受診率

検診の種類	医療保険者数	対象者数	受診者数	受診率
胃がん	9	5,603人	1,653人	29.5%
大腸がん	12	7,931人	2,379人	30.0%
肺がん	7	4,067人	1,676人	41.2%
乳がん	8	6,823人	744人	10.9%
子宮頸がん	7	6,546人	540人	8.2%

イ. がん検診対象年齢・性別における受診率

※問1 40歳以上の男女（50歳以上の男女、20歳以上の女性）の人数・受診者数双方に記載のあった医療保険者を集計対象とし、各人数の総和から算出した。なお、それぞれ無回答であった箇所は計算から除いた。

【全体の傾向】

がん検診対象年齢・性別における受診率は、被保険者では〔大腸がん〕、〔肺がん〕が5割を超えているが、〔胃がん〕、〔乳がん〕、〔子宮頸がん〕では受診率が低い傾向にある。

被扶養者でも〔乳がん〕、〔子宮頸がん〕の受診率は、1割以下と受診率が低い。また〔胃がん〕では、対象年齢によって、〔大腸がん〕や〔肺がん〕では、性別によって、受診率に差があり、受診率が1割以下となっている区分もある。

なお、一部受診率が100%を超えている部分があるが、これは対象者数以上の受診者数を答えていた医療保険者が複数存在していたためである。

〔被保険者〕

問3より がん検診対象年齢・性別における受診率

検診の種類	対象年齢・性別	医療保険者数	対象者数	受診者数	受診率
胃がん	50歳以上男性	5	9,794人	1,164人	11.9%
	40歳以上男性	4	7,644人	194人	2.5%
	50歳以上女性	30	340,471人	1,719人	0.5%
	40歳以上女性	4	12,368人	374人	3.0%
大腸がん	40歳以上男性	8	17,564人	9,928人	56.5%
	40歳以上女性	5	2,695人	1,442人	53.5%
肺がん	40歳以上男性	4	4,111人	3,112人	75.7%
	40歳以上女性	3	966人	521人	53.9%
乳がん	40歳以上女性	8	166,750人	21,377人	12.8%
子宮頸がん	20歳以上女性	10	286,296人	34,628人	12.1%

〔被扶養者〕

問3より がん検診対象年齢・性別における受診率

検診の種類	対象年齢・性別	医療保険者数	対象者数	受診者数	受診率
胃がん	50歳以上男性	23	642人	23人	3.6%
	40歳以上男性	3	697人	276人	39.6%
	50歳以上女性	3	51人	2人	3.9%
	40歳以上女性	3	1,104人	275人	24.9%
大腸がん	40歳以上男性	4	52人	116人	223.1%
	40歳以上女性	4	1,467人	596人	40.6%
肺がん	40歳以上男性	3	51人	2人	3.9%
	40歳以上女性	3	1,104人	503人	45.6%
乳がん	40歳以上女性	6	6,573人	504人	7.7%
子宮頸がん	20歳以上女性	7	9,667人	485人	5.0%

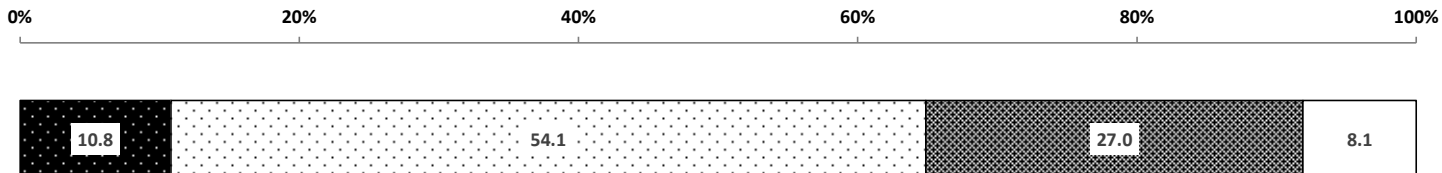
4 職域におけるがん検診に関するマニュアルの活用状況

問4 「職域におけるがん検診に関するマニュアル」（平成30年3月厚生労働省作成）を知っていますか。

(1) マニュアルの活用状況
(n=37)

【全体の傾向】

マニュアルを知っているかを伺ったところ、「知っているが活用はしていない」が54.1%で最も多く、次いで「知らない」が27.0%となっている。



知っている活用している
 知っているが活用はしていない 知らない 無回答
 (マニュアルに基づいて検診方法検討、精度管理を実施している)

【医療保険者の種別の傾向】

医療保険者の種別でみると、【国民健康保険組合】では「知らない」が最も多く、【共済組合】、【組合健康保険 計】では「知っているが活用していない」が最も多くなっている。【全国健康保険協会（協会けんぽ）】は1サンプルのみで、「知っているが活用していない」と回答している。

医療保険者数	上段:件数、下段:構成比(%)				
	知っている活用している	知っているが活用はしていない	知らない	無回答	
国民健康保険組合	4 100.0	-	1 20.0	2 40.0	1 40.0
全国健康保険協会(協会けんぽ)	1 100.0	-	1 100.0	-	-
共済組合	4 100.0	-	3 75.0	1 25.0	-
組合健康保険 計	27 100.0	3 10.3	15 51.7	7 24.1	2 13.8
無回答	1 100.0	1 100.0	-	-	-
合計	37 100.0	4 7.5	20 50.0	10 25.0	3 15.0

【職域におけるがん検診に関するマニュアルに準拠した検査方法、対象、検診間隔で実施している医療保険者の割合（全体）】

全体で見ると被保険者、被扶養者ともに【大腸がん】、【肺がん】のみマニュアルに準拠した検査方法、対象、検診間隔で実施している医療保険者が存在する結果となった。

なお、集計にあたり、肺がん検診において、喀痰検査の対象者であるか、アンケート上では不明であるため、胸部X線検査を実施した医療保険者をマニュアルに準拠しているとした。

上段:件数、下段:構成比(%)

検診の種類	被保険者		被扶養者	
	医療保険者数	マニュアルに準拠した検査方法、対象、検診間隔で実施している医療保険者数	医療保険者数	マニュアルに準拠した検査方法、対象、検診間隔で実施している医療保険者数
胃がん	32 100.0	- -	24 100.0	- -
大腸がん	35 100.0	4 11.4	26 100.0	5 19.2
肺がん	31 100.0	3 9.7	23 100.0	4 17.4
乳がん	31 100.0	- -	23 100.0	- -
子宮頸がん	28 100.0	- -	23 100.0	- -

【マニュアルに準拠した方法で実施している医療保険者の医療保険者別集計】

<医療保険者種別（被保険者）>

[大腸がん]

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保 険 者 数
国民健康保険組合	-
全国健康保険協会(協会けんぽ)	-
共済組合	-
組合健康保険 計	4 100.0
無回答	-
合計	4 100.0

[肺がん]

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保 険 者 数
国民健康保険組合	-
全国健康保険協会(協会けんぽ)	-
共済組合	-
組合健康保険 計	3 100.0
無回答	-
合計	3 100.0

<医療保険者種別（被扶養者）>

[大腸がん]

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保 険 者 数
国民健康保険組合	-
全国健康保険協会(協会けんぽ)	-
共済組合	-
組合健康保険 計	5 100.0
無回答	-
合計	5 100.0

[肺がん]

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保 険 者 数
国民健康保険組合	-
全国健康保険協会(協会けんぽ)	-
共済組合	-
組合健康保険 計	4 100.0
無回答	-
合計	4 100.0

医療保険者種別で見ると被保険者、被扶養者ともに、【組合健康保険 計】において実施している。

【マニュアルにない検査方法を実施している医療保険者の割合（全体）】

全体で見ると被保険者、被扶養者ともに【乳がん】において「マニュアルにない検査方法で実施している医療保険者数」の割合が最も高くなっている。

上段:件数、下段:構成比(%)

検診の種類	被保険者		被扶養者	
	医療保険者数	マニュアルにない検査方法で実施している医療保険者数	医療保険者数	マニュアルにない検査方法で実施している医療保険者数
胃がん	32 100.0	18 56.3	24 100.0	13 54.2
大腸がん	35 100.0	10 28.6	26 100.0	6 23.1
肺がん	31 100.0	9 29.0	23 100.0	8 34.8
乳がん	31 100.0	30 96.8	23 100.0	23 100.0
子宮頸がん	28 100.0	13 46.4	23 100.0	13 56.5

【マニュアルにない検査方法で実施している医療保険者の医療保険者別集計】

＜医療保険者種別（被保険者）＞

〔胃がん〕

〔大腸がん〕

〔肺がん〕

上段:件数、下段:構成比(%)		上段:件数、下段:構成比(%)		上段:件数、下段:構成比(%)	
	医療 保 険 者 数		医療 保 険 者 数		医療 保 険 者 数
国民健康保険組合	3 16.7	国民健康保険組合	2 20.0	国民健康保険組合	3 33.3
全国健康保険協会(協会けんぽ)	-	全国健康保険協会(協会けんぽ)	-	全国健康保険協会(協会けんぽ)	-
共済組合	-	共済組合	2 20.0	共済組合	1 11.1
組合健康保険 計	15 83.3	組合健康保険 計	6 60.0	組合健康保険 計	5 55.6
無回答	-	無回答	-	無回答	-
合計	18 100.0	合計	10 100.0	合計	9 100.0

〔乳がん〕

〔子宮頸がん〕

上段:件数、下段:構成比(%)		上段:件数、下段:構成比(%)	
	医療 保 険 者 数		医療 保 険 者 数
国民健康保険組合	2 6.7	国民健康保険組合	1 7.7
全国健康保険協会(協会けんぽ)	1 3.3	全国健康保険協会(協会けんぽ)	-
共済組合	4 13.3	共済組合	1 7.7
組合健康保険 計	22 73.3	組合健康保険 計	10 76.9
無回答	1 3.3	無回答	1 7.7
合計	30 100.0	合計	13 100.0

医療保険者種別でみると被保険者では、いずれのがん検診においても【組合健康保険 計】の割合が最も高くなっている。

<医療保険者種別（被扶養者）>

[胃がん]

[大腸がん]

[肺がん]

上段:件数、下段:構成比(%)		上段:件数、下段:構成比(%)		上段:件数、下段:構成比(%)	
	医療 保険 者 数		医療 保険 者 数		医療 保険 者 数
国民健康保険組合	2 15.4	国民健康保険組合	1 16.7	国民健康保険組合	1 12.5
全国健康保険協会(協会けんぽ)	-	全国健康保険協会(協会けんぽ)	-	全国健康保険協会(協会けんぽ)	-
共済組合	-	共済組合	1 16.7	共済組合	1 12.5
組合健康保険 計	10 76.9	組合健康保険 計	4 66.7	組合健康保険 計	5 62.5
無回答	1 7.7	無回答	-	無回答	1 12.5
合計	13 100.0	合計	6 100.0	合計	8 100.0

[乳がん]

[子宮頸がん]

上段:件数、下段:構成比(%)		上段:件数、下段:構成比(%)	
	医療 保険 者 数		医療 保険 者 数
国民健康保険組合	1 4.3	国民健康保険組合	-
全国健康保険協会(協会けんぽ)	-	全国健康保険協会(協会けんぽ)	-
共済組合	1 4.3	共済組合	1 7.7
組合健康保険 計	20 87.0	組合健康保険 計	11 84.6
無回答	1 4.3	無回答	1 7.7
合計	23 100.0	合計	13 100.0

医療保険者種別でみると被扶養者でも、いずれのがん検診においても【組合健康保険 計】の割合が最も高くなっている。

5 一次検診・精密検査の受診勧奨や説明

問5 がん検診の受診勧奨や説明及び精密検査の受診勧奨や説明についてお答えください。

(1) がん検診（一次検診）の受診を促す取組

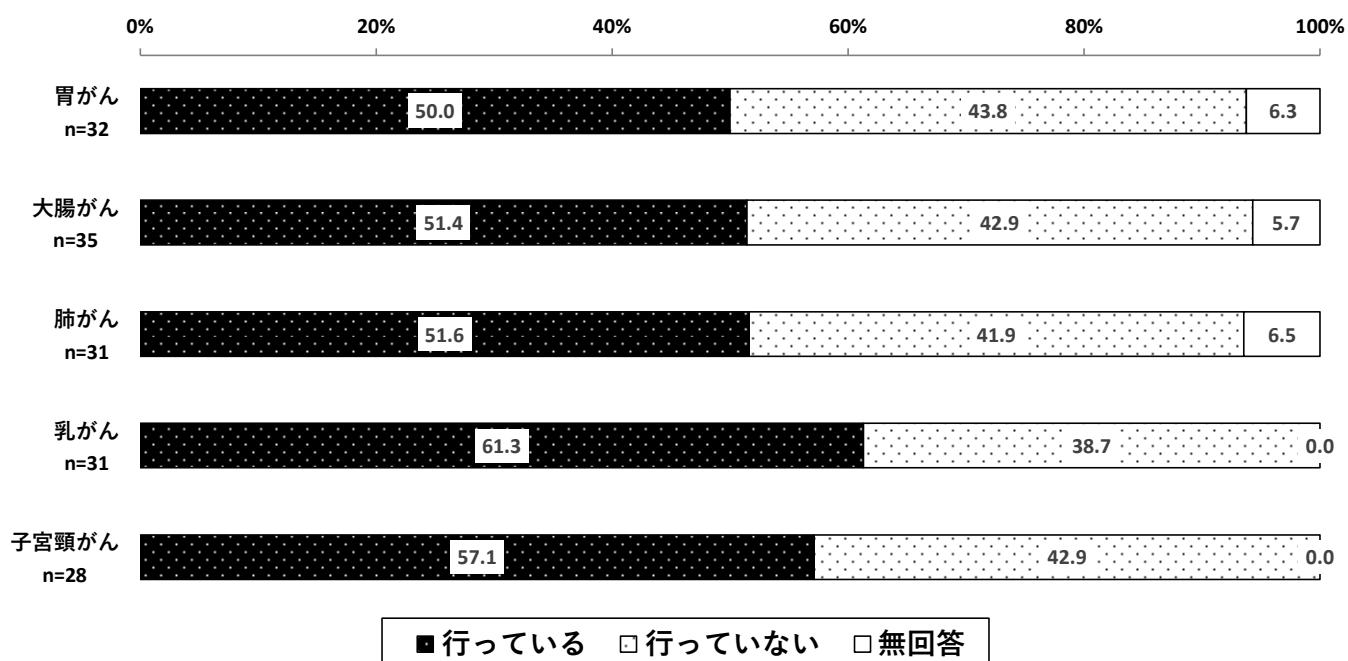
【全体の傾向】

がん検診（一次検診）の受診を促す取組について、被保険者では、受診を促す取組を行っている医療保険者の割合は、【乳がん】において61.3%と最も高くなっている。次いで、【子宮頸がん】が57.1%となっている。

被扶養者でも【乳がん】と【子宮頸がん】の割合が高く、どちらも69.6%と最も高くなっている。

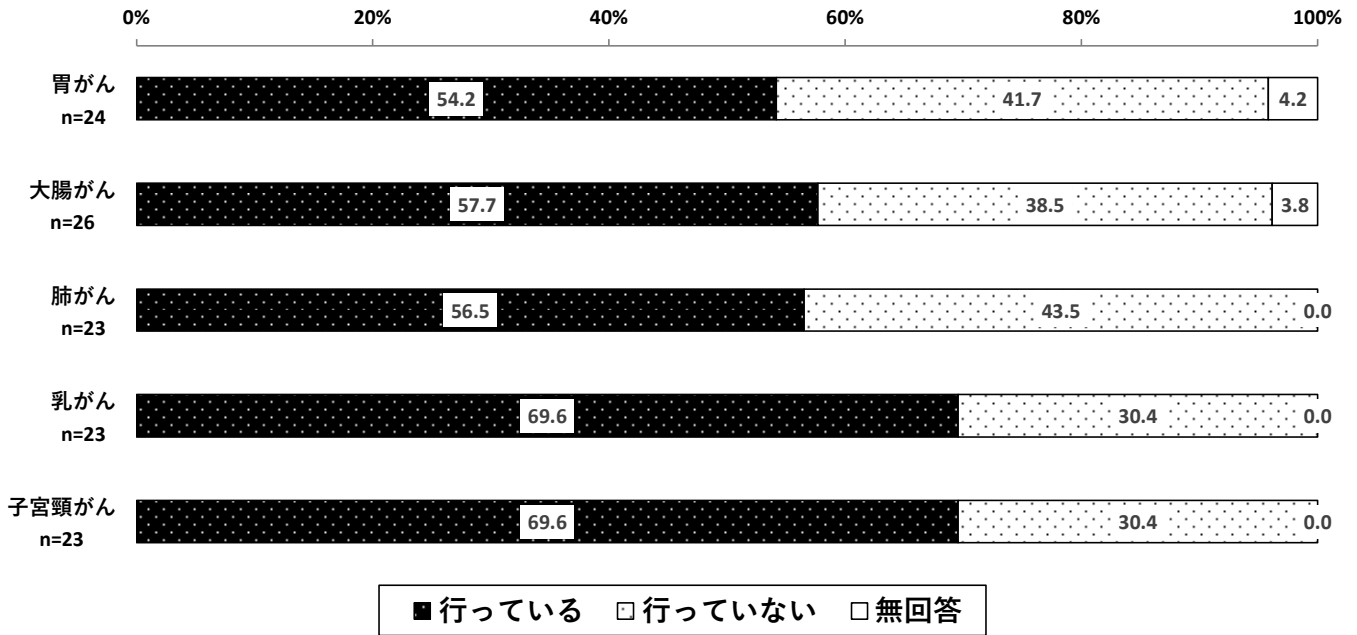
[被保険者]

問5 (1) 貴保険者において、がん検診（一次検診）の受診を促す取組（受診勧奨）を行っていますか。（各がんについて、該当する欄に○）



[被扶養者]

問5(1) 貴保険者において、がん検診(一次検診)の受診を促す取組(受診勧奨)を行っていますか。(各がんについて、該当する欄に○)



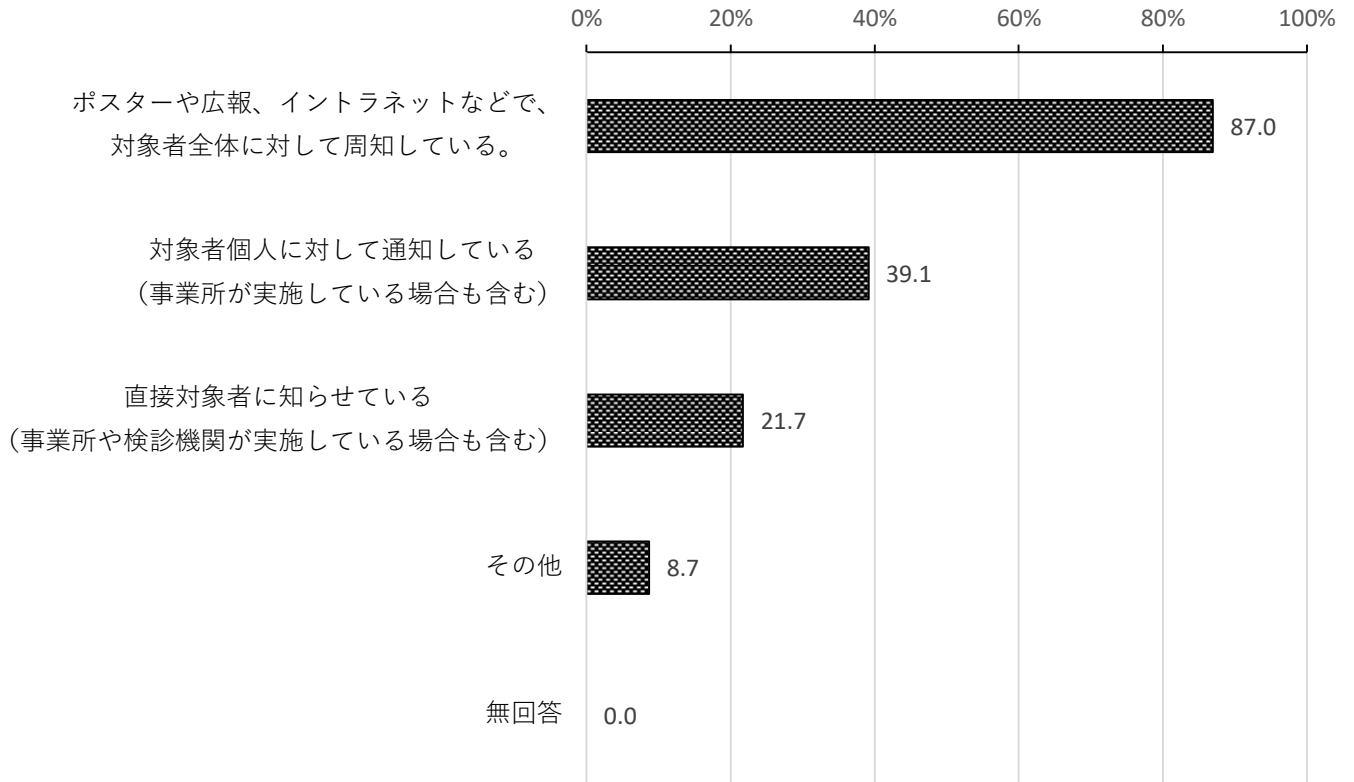
(2) がん検診（一次検診）の受診勧奨方法

【全体の傾向】

実施している受診勧奨方法は、「ポスターや広報、イントラネットなどで、対象者全体に対して周知している」が 87.0%で最も多く、次いで「対象者個人に対して通知している（事業者が実施している場合も含む）」が 39.1%などとなっている。

問5（1）のがん検診のいずれかで「行っている」に○をつけた方

問5（2）がん検診の（一次検診）の受診勧奨はどのように行っていますか。（該当する全てに○）
(n=23)

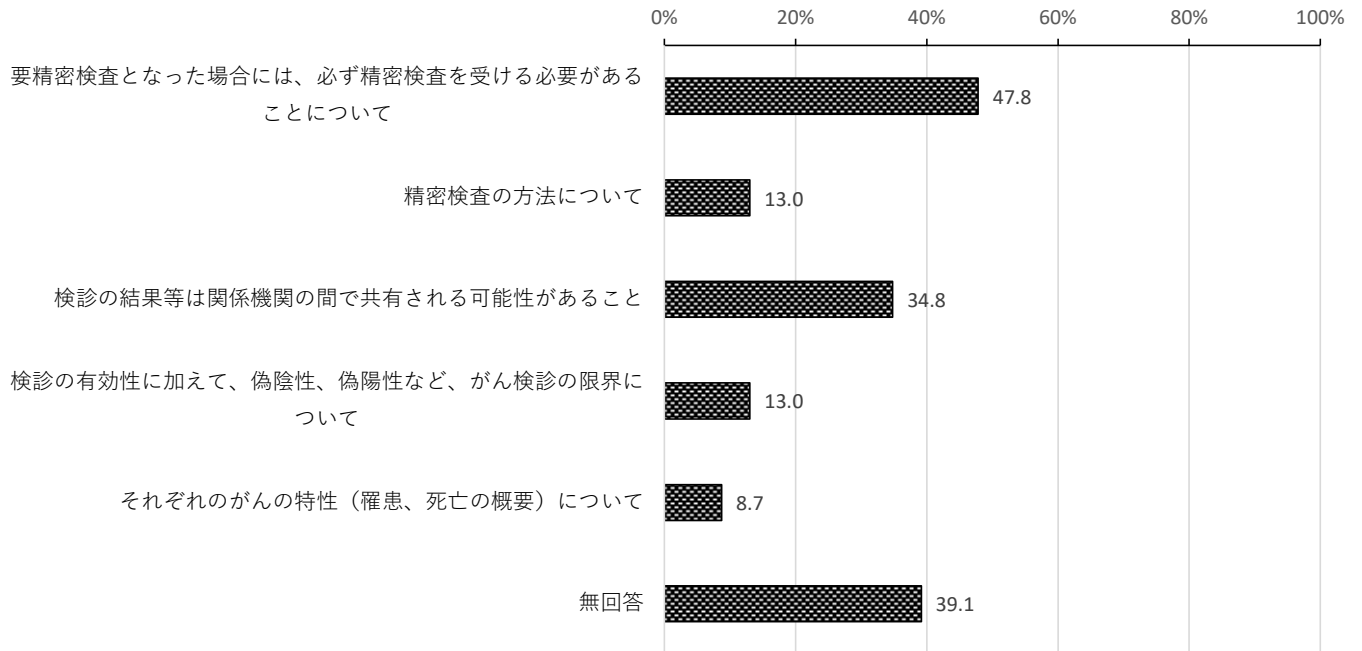


(3) がん検診（一次検診）の受診勧奨時の資料に掲載する項目

【全体の傾向】

受診勧奨時の資料に掲載する項目は、「要精密検査となった場合には、必ず精密検査を受ける必要があることについて」が 47.8%で最も多く、次いで「検診の結果等は関係機関の間で共有される可能性があること」が 34.8%となっている。

問5 (3) がん検診（一次検診）の受診勧奨をする際に提示または配布する資料に記載している項目をお答えください。（該当する全てに○）（n=23）



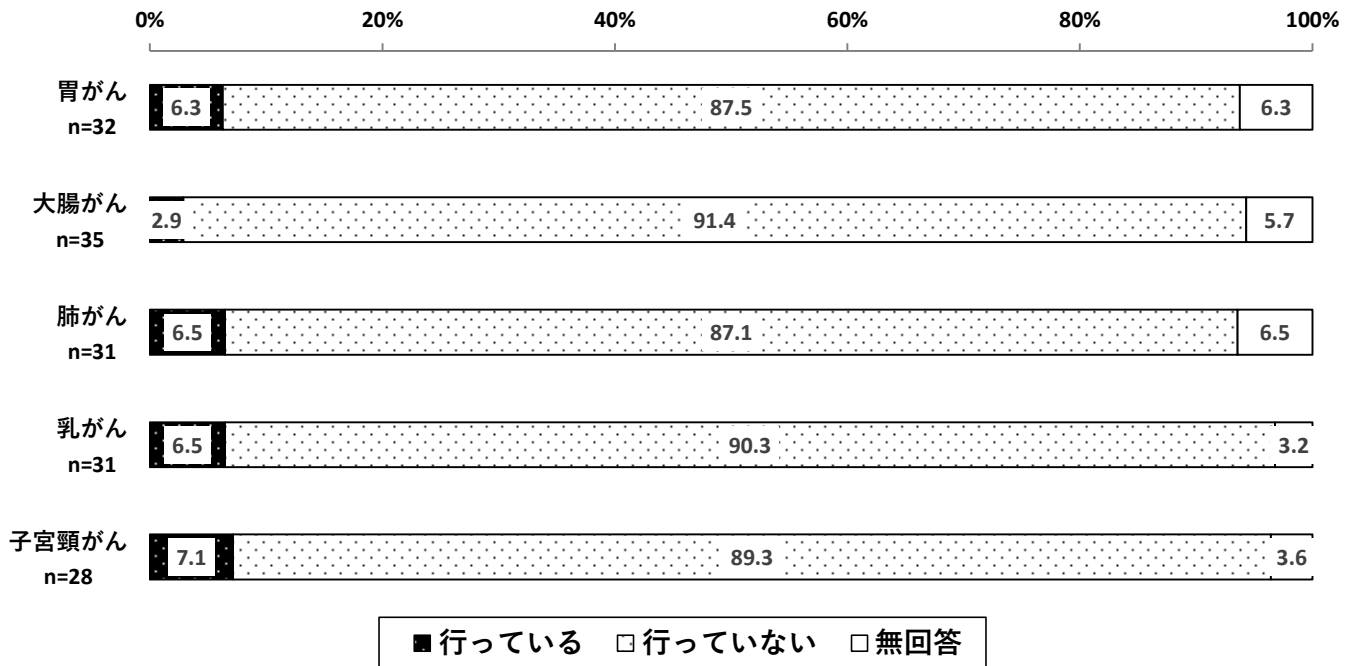
(4) 未受診者に対しての再度のお知らせ

【全体の傾向】

未受診者に対しての再度のお知らせは、被保険者においては約9割、被扶養者においては約8割が「行っていない」と回答している。

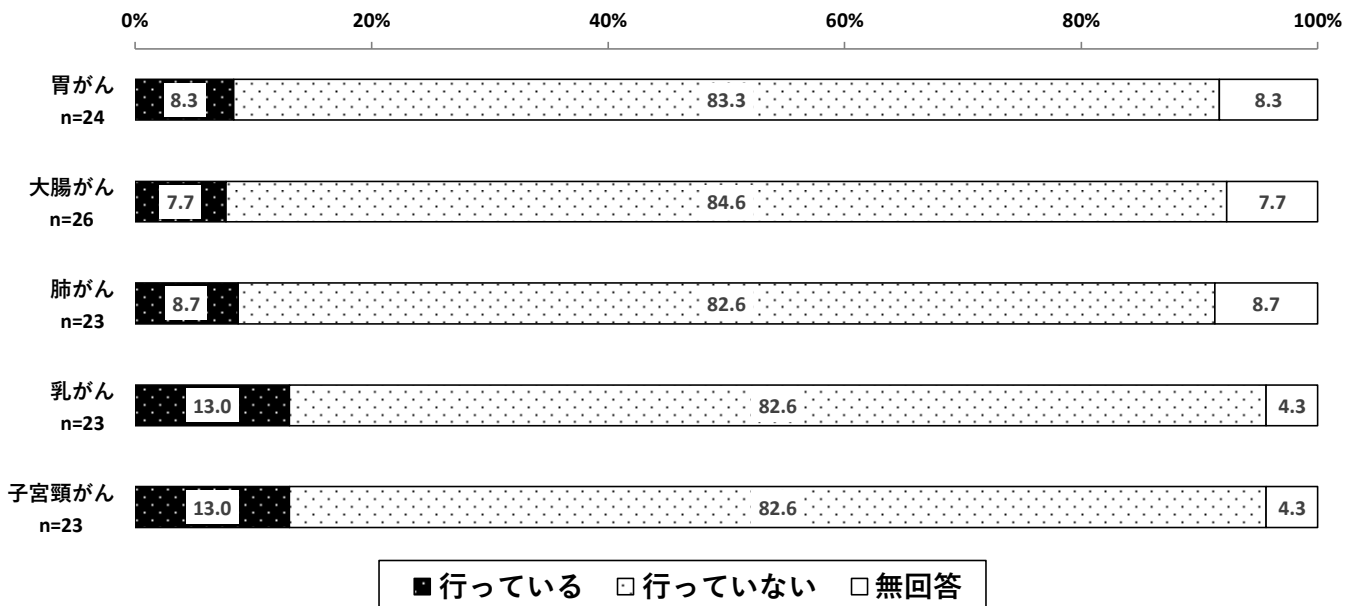
[被保険者]

問5(4) がん検診の未受診者に対して再度のお知らせ(受診勧奨)を行っていますか。(各がんについて、該当1つに○)



[被扶養者]

問5(4) がん検診の未受診者に対して再度のお知らせ(受診勧奨)を行っていますか。(各がんについて、該当1つに○)



(5) 要精検者への受診を促す取組

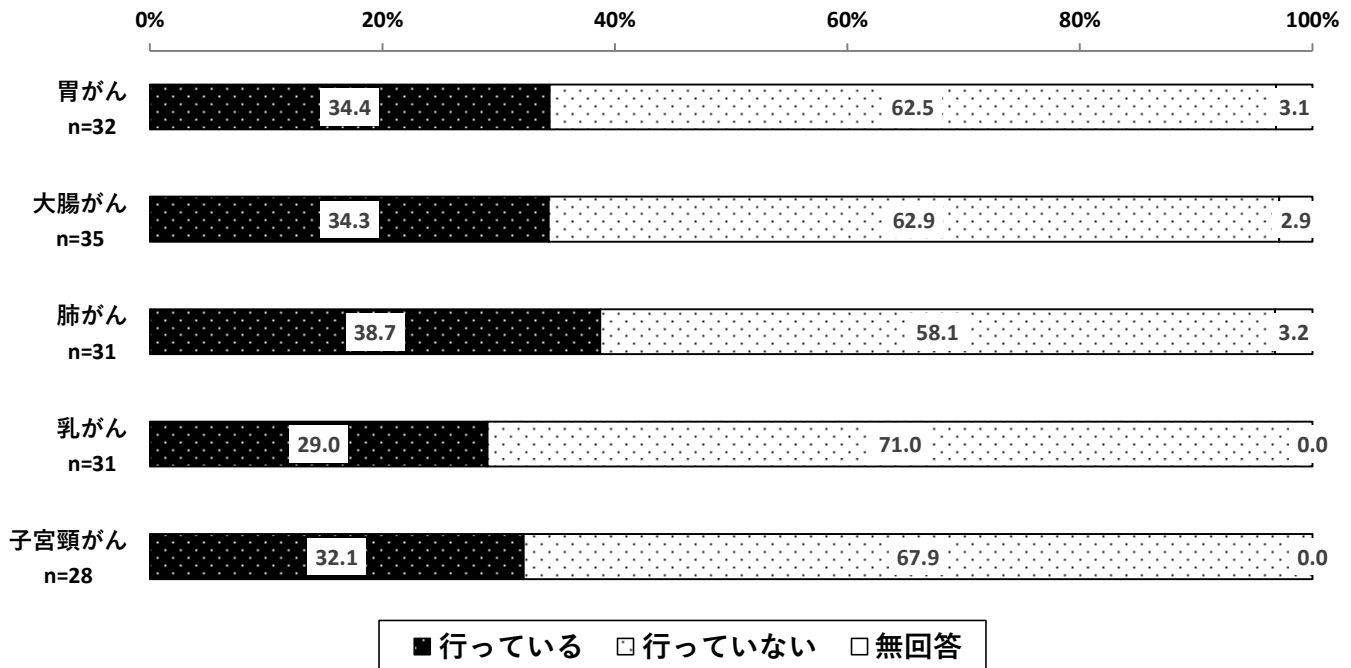
【全体の傾向】

がん検診の要精検者に対して、受診を促す取組を「行っている」割合は、被保険者・被扶養者ともに【肺がん】において、それぞれ38.7%、39.1%と最も高くなっている。

その他のがん検診において、受診を促す取組を「行っている」割合は、約3割となっている。

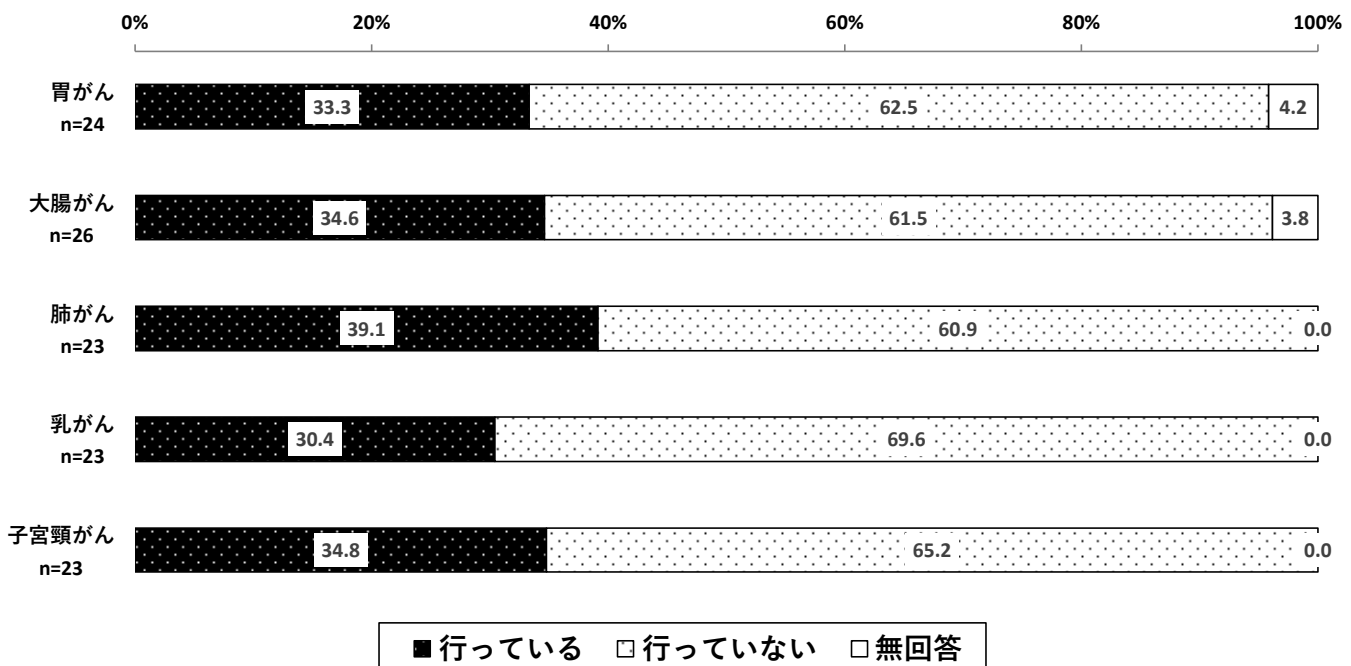
[被保険者]

問5 (5) 貴保険者において要精検者に対し、検査結果通知のほかに精密検査の受診を促す取組を行っていますか。(各がんについて、該当1つに○)



[被扶養者]

問5 (5) 貴保険者において要精検者に対し、検査結果通知のほかに精密検査の受診を促す取組を行っていますか。(各がんについて、該当1つに○)



(6) 精密検査受診の勧奨方法

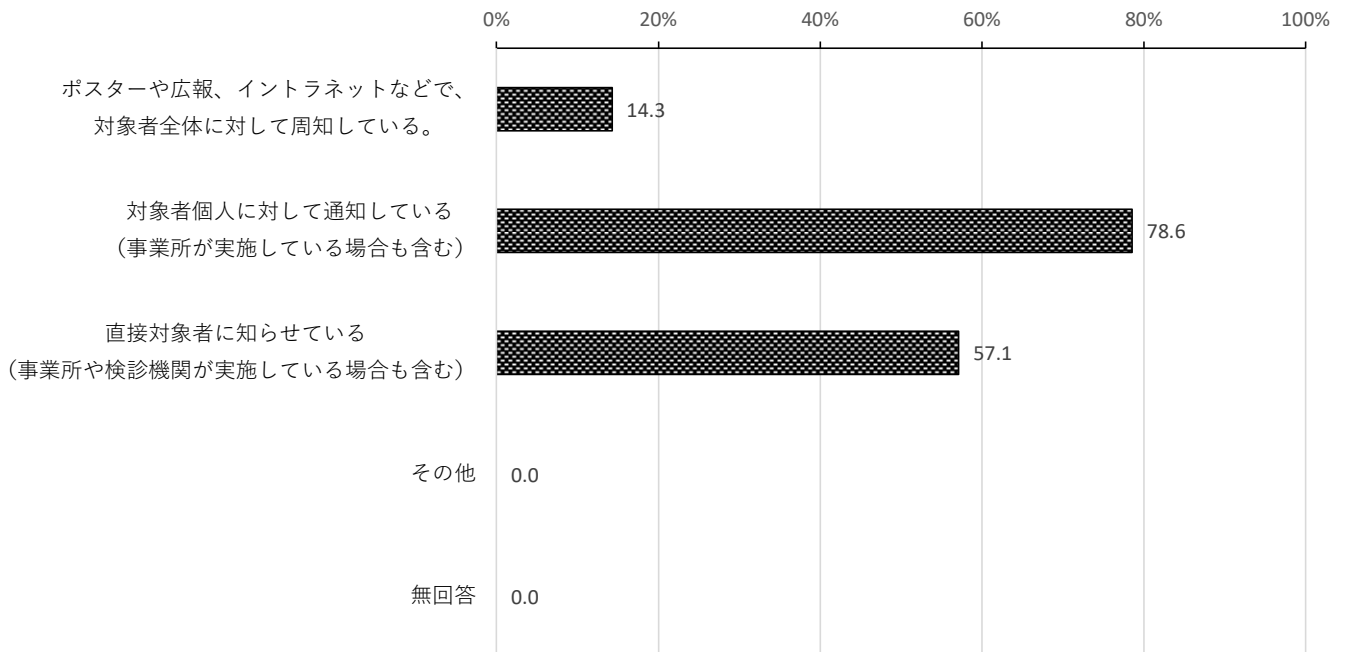
【全体の傾向】

実施している精密検査受診の勧奨方法は、「対象者個人に対して通知している（事業所が実施している場合も含む）」が 78.6%で最も多く、次いで「直接対象者に知らせている（事業所や検診機関が実施している場合も含む）」が 57.1%となっている。

問5（5）のがん検診のいずれかで「行っている」に○をつけた方

問5（6）要精検者への精密検査の受診勧奨はどのように行っていますか。（該当する全てに○）

(n=14)



6 一次検診結果の把握状況

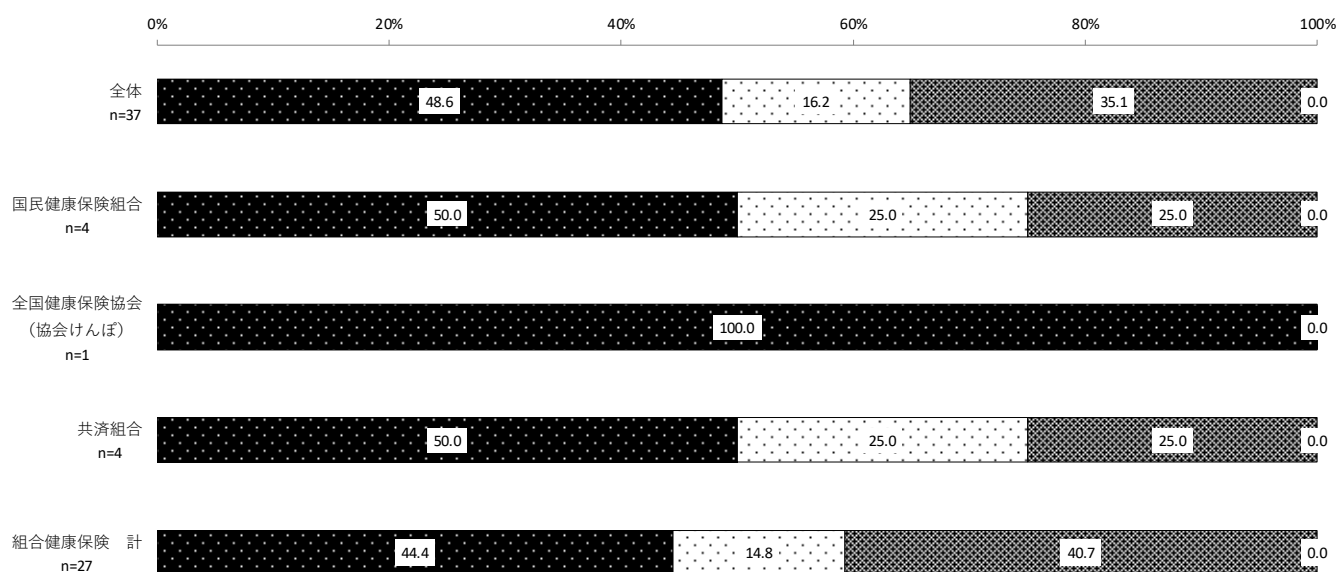
問6 貴保険者のがん検診一次検診についてお答えください。

(1) 一次検診結果の把握状況

【全体の傾向】

がん検診の受診結果を「把握している」医療保険者は 64.8%で、うち「すべての受診者の検診結果を把握している」は 48.6%、「一部の受診者の検診結果を把握している」は 16.2%となっている。

問6 (1) がん検診の個人ごとの結果について把握していますか。(該当1つに○) (n=37)



すべての受診者の検診結果を把握している
 一部の受診者の検診結果を把握している
 把握していない
 無回答

(2) 結果を把握していない理由

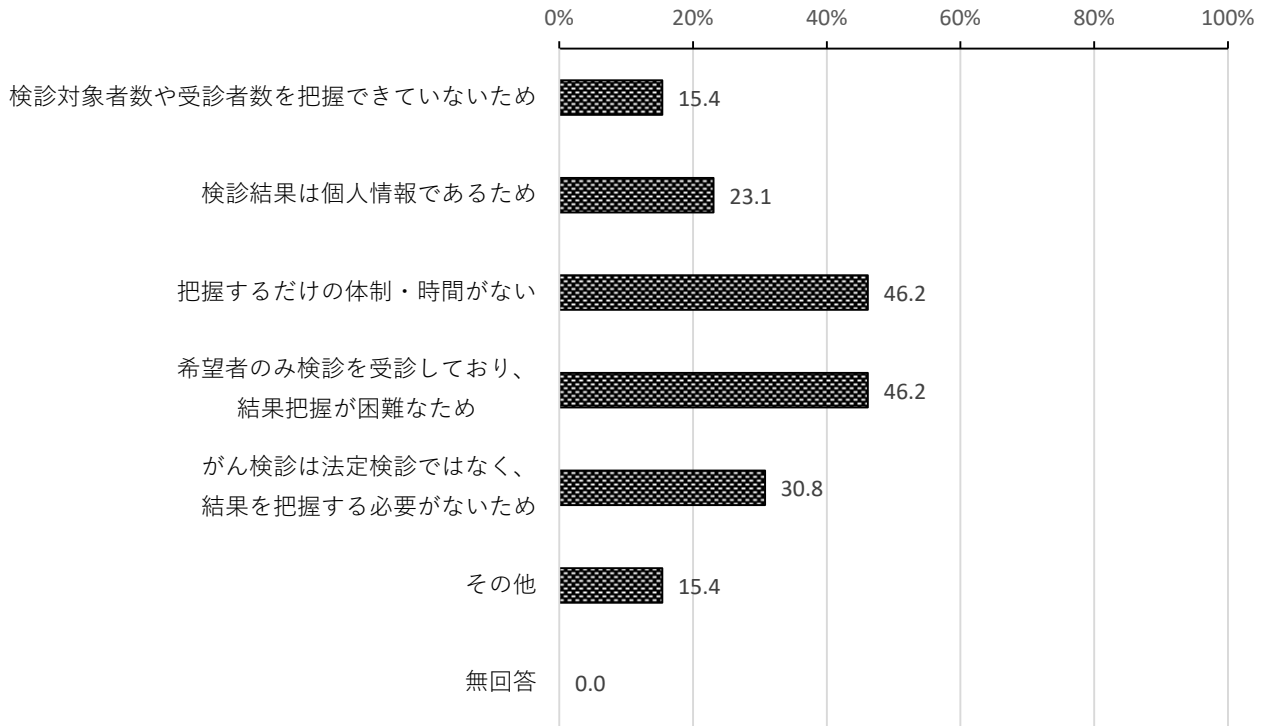
【全体の傾向】

がん検診の受診結果を把握していない理由は、「把握するだけの体制・時間がない」、「希望者のみ検診を受診しており、結果把握が困難なため」が 46.2% で最も多く、次いで「がん検診は法定検診ではなく、結果を把握する必要がないため」が 30.8% となっている。

問 6 (1) で「把握していない」に○をつけた方

問 6 (2) がん検診の個人ごとの結果を把握していない理由を教えてください。(該当すべてに○)

(n=13)



7 がん検診の要精検者の把握状況

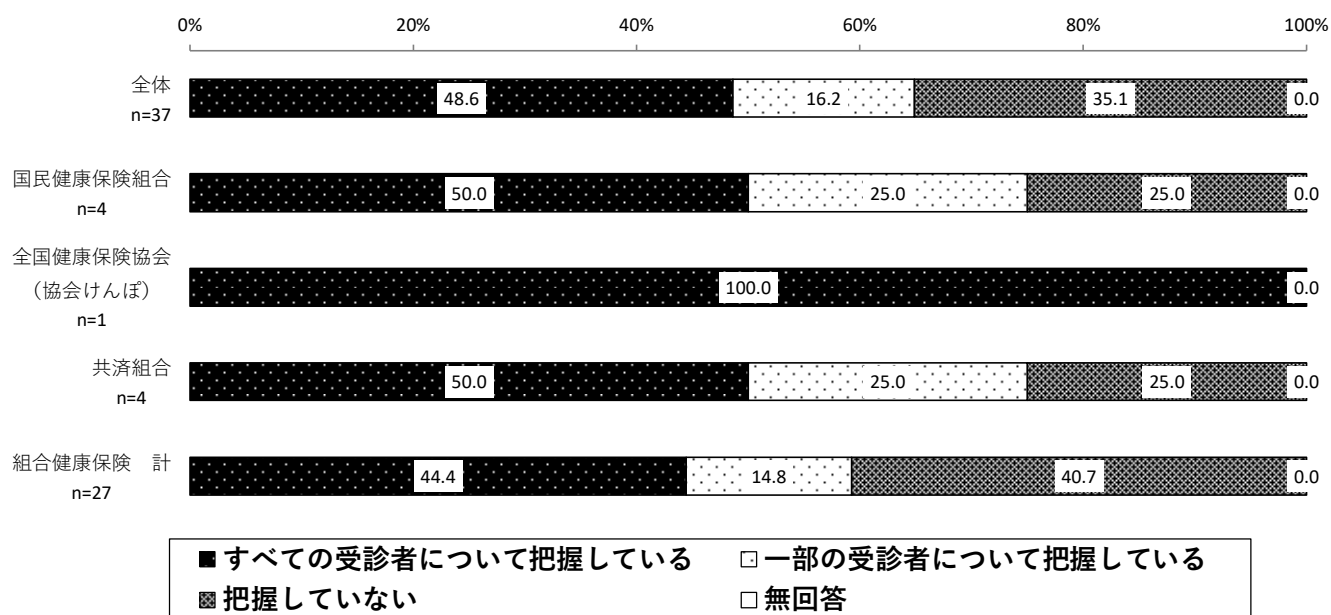
問7 貴保険者のがん検診において、精密検査が必要となった方（要精検者）の把握状況についてお答えください。

(1) がん検診の要精検者の把握状況

【全体の傾向】

精密検査が必要となった方（要精検者）を「把握している」医療保険者は 64.8%で、うち「すべての受診者について把握している」は 48.6%、「一部の受診者について把握している」は 16.2%となっている。

問7 (1) がん検診の要精検者を把握していますか。（該当1つに○） (n=37)



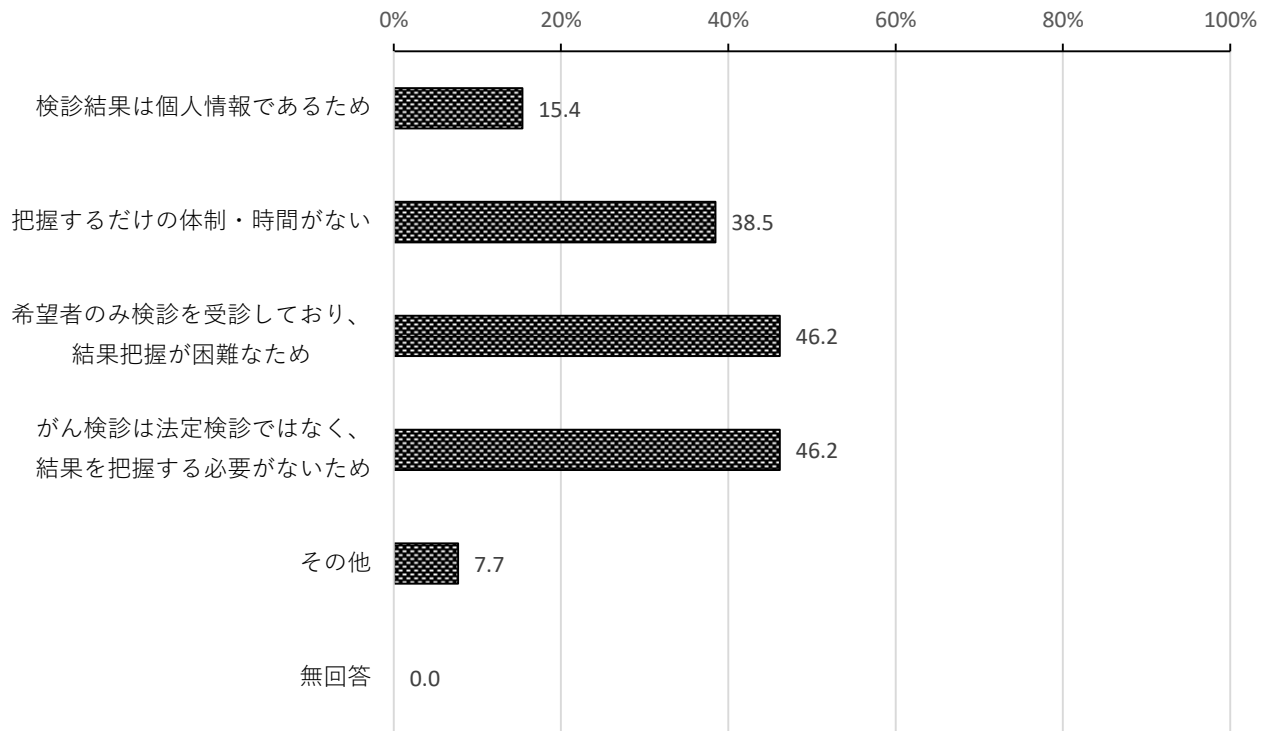
(2) 要精検者を把握していない理由

【全体の傾向】

要精検者を把握していない理由は、「希望者のみ検診を受診しており、結果把握が困難なため」、「がん検診は法定検診ではなく、結果を把握する必要がないため」が 46.2% で最も多く、次いで「把握するだけの体制・時間がない」が 38.5%となっている。

問7(1)で「把握していない」に○をつけた方

問7(2)ががん検診の要精検者を把握していない理由をお答えください。(該当すべてに○)
(n=13)



8 精密検査結果の把握状況

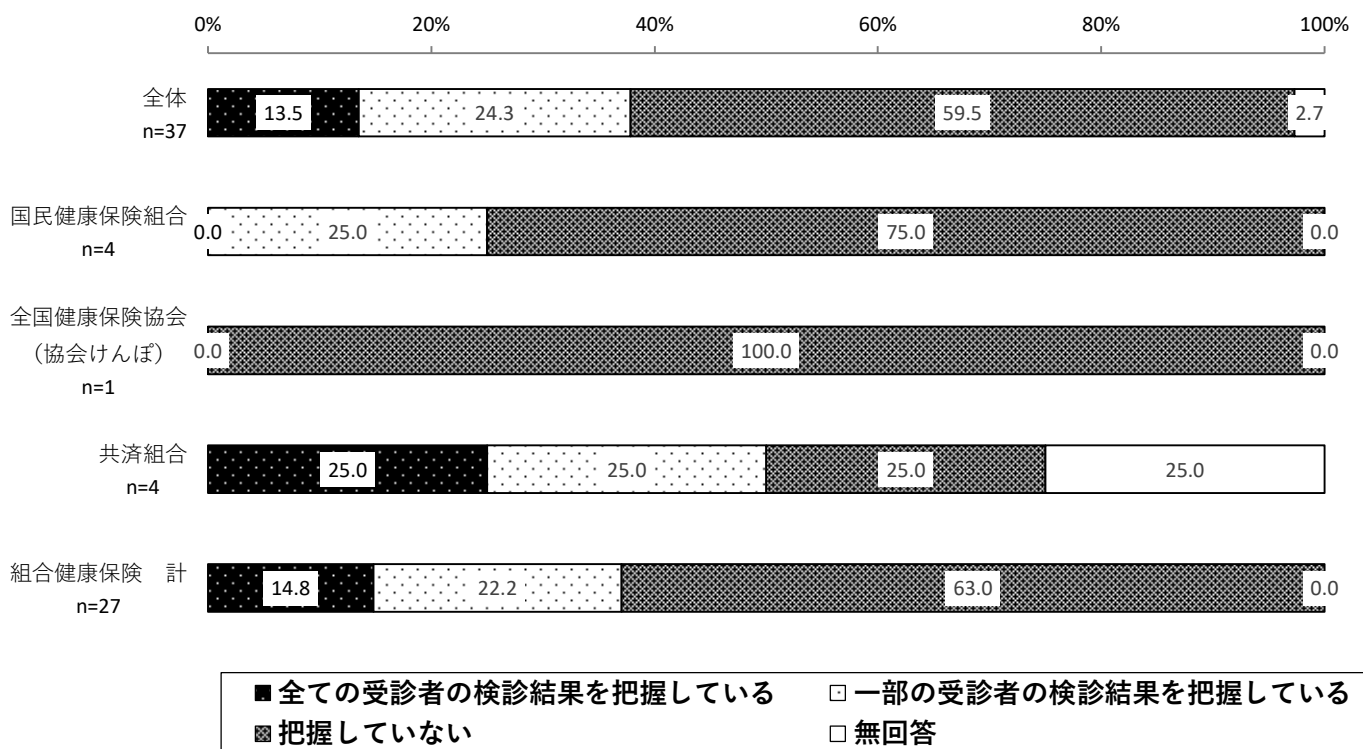
問8 貴保険者の精密検査結果の把握状況についてお答えください。

(1) 個人ごとの精密検査結果の把握状況

【全体の傾向】

個人ごとの精密検査結果を「把握している」医療保険者は 37.8%で、うち「すべての受診者の検診結果を把握している」は 13.5%、「一部の受診者の検診結果を把握している」は 24.3%となっている。

問8 (1) 精密検査結果の個人毎の結果について把握していますか。(該当1つに○) (n=37)



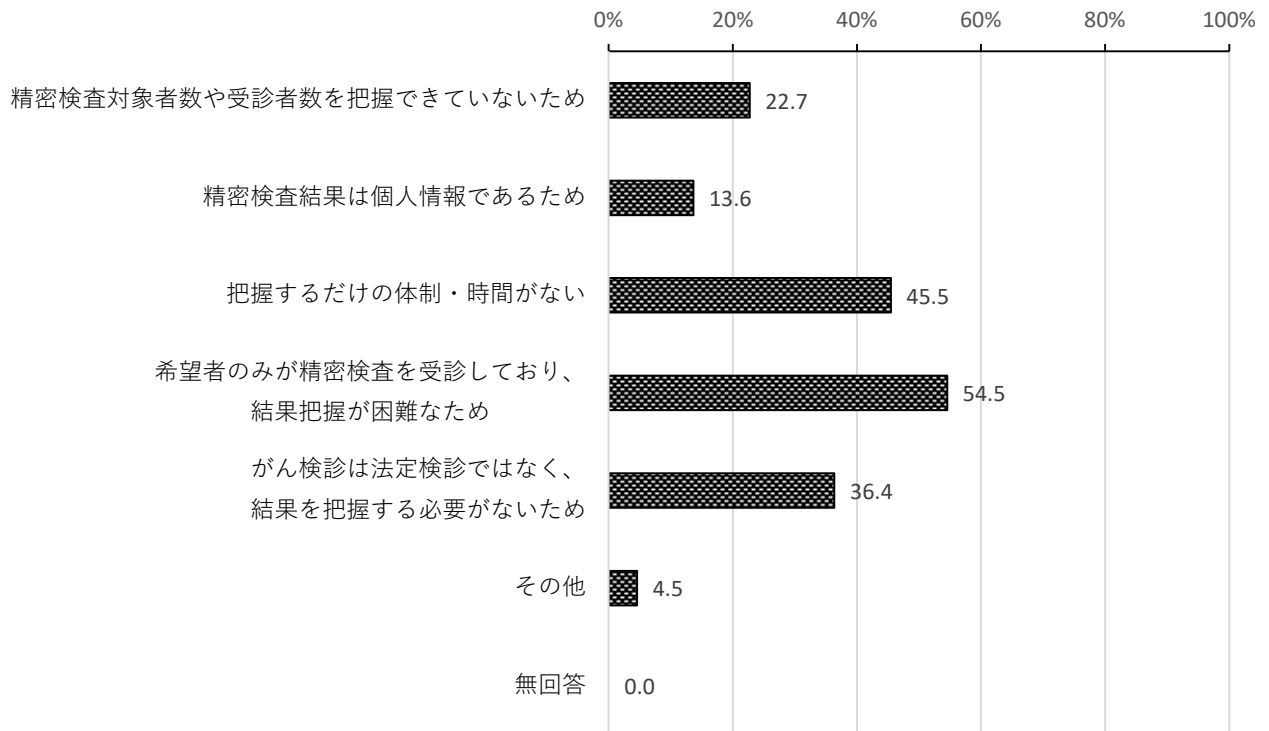
(2) 精密検査結果を把握していない理由

【全体の傾向】

がん検診の受診結果を把握していない理由は、「希望者のみ検診を受診しており、結果把握が困難なため」が 54.5%で最も多く、次いで「把握するだけの体制・時間がない」が45.5%となっている。

問 8 (1) で「把握していない」に○をつけた方

問 8 (2) 個人毎の精密検査結果を把握していない理由をお答えください。(該当すべてに○)
(n=22)



9 プロセス指標の集計状況

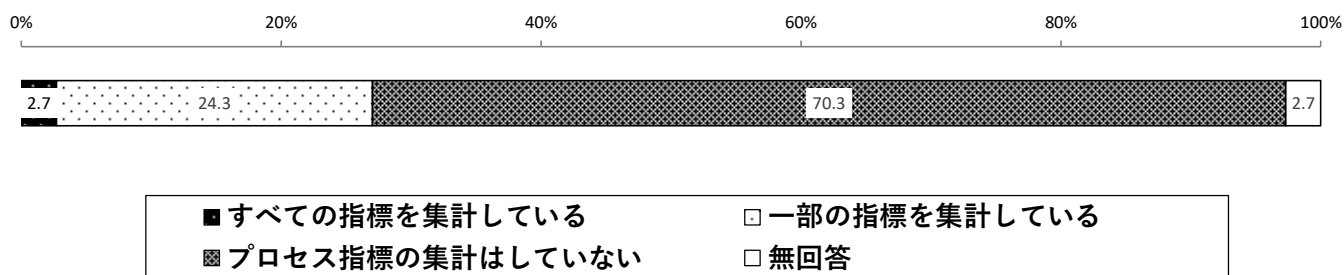
問9 貴保険者でのプロセス指標の集計状況についてお答えください。

(1) プロセス指標の集計有無

【全体の傾向】

プロセス指標を集計していない医療保険者が70.3%であり、プロセス指標を集計している医療保険者は27.0%で、「すべての指標を集計している」が2.7%、「一部の指標を集計している」が24.3%となっている。

問9 (1) プロセス指標（受診率、要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応的中度）の集計を行っていますか。（該当1つに○）（n=37）



(2) 集計している指標

【全体の傾向】

被扶養者の[胃がん]では、「受診率（一次検診）」のみの回答となっており、その他のがん検診においては被保険者・被扶養者ともに「受診率（一次検診）」が最も高い。次いで [胃がん]を除いた各がん検診において「要精検率」・「精検受診率」が高くなっている。

【被保険者】

問9 (2) 貴事業所において、集計している指標をお答えください。（該当するものに○）

	医療保険者数	上段:件数、下段:構成比(%)						無回答
		(受診率 一次検診)	要精検率	精検受診率	がん発見率	陽性反応的中度		
胃がん	8	7	-	-	-	-	1	
	100.0	87.5	-	-	-	-	12.5	
大腸がん	10	9	2	2	1	1	1	
	100.0	90.0	20.0	20.0	10.0	10.0	10.0	
肺がん	8	6	1	1	-	-	2	
	100.0	75.0	12.5	12.5	-	-	25.0	
乳がん	8	6	1	1	-	-	2	
	100.0	75.0	12.5	12.5	-	-	25.0	
子宮頸がん	6	4	1	1	-	-	2	
	100.0	66.7	16.7	16.7	-	-	33.3	

[被扶養者]

問9（2）貴事業所において、集計している指標をお答えください。（該当するものに○）

上段：件数、下段：構成比(%)

	医療 保 険 者 数	（ 一 次 検 診 ） 受 診 率	要 精 検 率	精 検 受 診 率	が ん 発 見 率	陽 性 反 応 的 中 度	無 回 答
胃がん	4 100.0	4 100.0	- -	- -	- -	- -	- -
大腸がん	6 100.0	6 100.0	2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7	- -
肺がん	5 100.0	5 100.0	1 20.0	1 20.0	- -	- -	- -
乳がん	5 100.0	4 80.0	1 20.0	1 20.0	- -	- -	1 20.0
子宮頸がん	5 100.0	4 80.0	1 20.0	1 20.0	- -	- -	1 20.0

10 がん検診の受診者を増やす取組

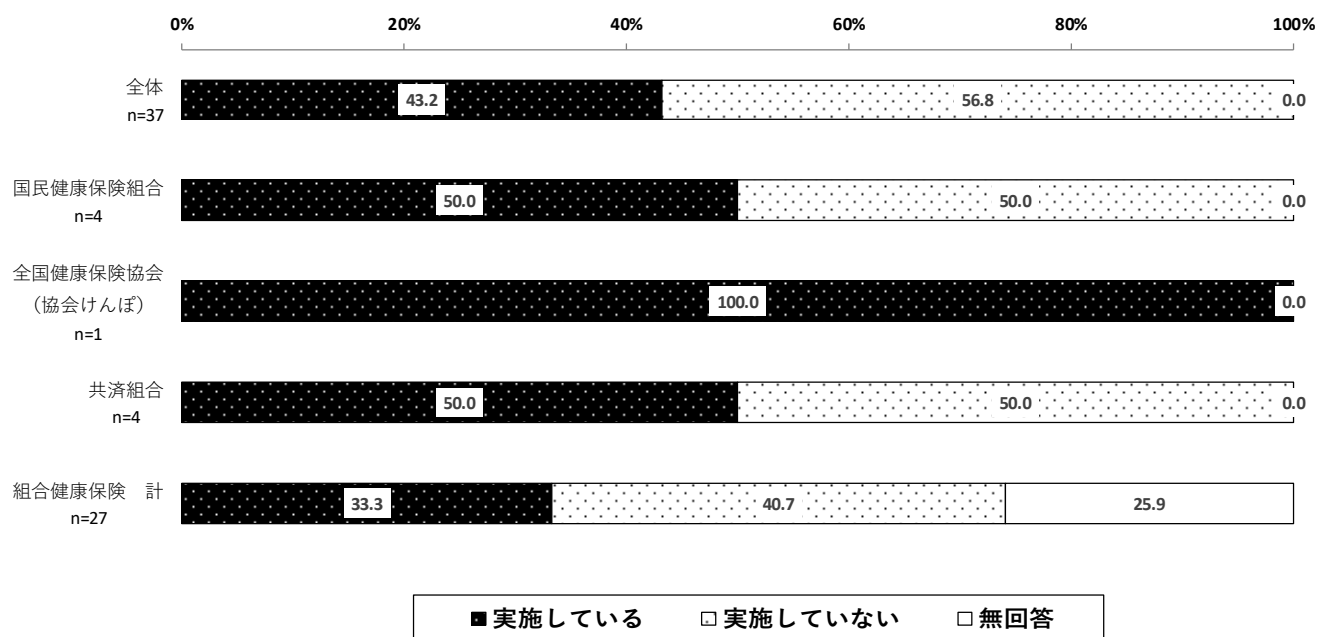
問10 貴保険者で実施しているがん検診の受診者を増やす取組についてお答えください。

(1) がん検診の受診者を増やす取組の実施状況

(n=37)

【全体の傾向】

がん検診の受診者を増やす取組を「実施している」医療保険者は 43.2%、「実施していない」は 56.8%となっている。



1 1 その他の欄の記述集計

(1) その他の記述集計表

集計にあたり、同じ記載内容に該当するものは、同一項目として件数カウントした。

1) がん検診の実施状況

【問2 貴保険者のがん検診の実施状況についてお答えください。】

ア) 検診を受診できる範囲について (問2 (1))

その他の回答	件数
任意継続除く被保険者及び被扶養者	1
被保険者・被扶養者共に35歳以上 ただし被扶養配偶者は20歳以上	1

イ) がん検診を実施していない理由 (問2 (1))

その他の回答	件数
がん検診補助を実施しています。	1
人間ドック補助金においてがん検診を対象としている	1

ウ) (実施していないがん検診について) がん検診を実施していない理由 (問2 (4) ①)

その他の回答	件数
オプション選択のため	2
該当者なし	1
健康診断項目にないため	1
年齢によっては受診可能	1
実施検討中・実施予定あり	1

エ) (実施していないがん検診について) 他の機会でのがん検診受診を促す取組 (問2 (4) ②)

その他の回答	件数
民間のがんリスク検査で高リスク判定と出た方へ医療機関受診勧奨	1
補助金・助成金	1
行っていないが1の市町村の実施する検診の受診勧奨を検討したい。	1
個人での健康診断の利用、支部別の集団健診の利用を勧めている	1

2) 各がん検診の検査実施方法及び受診状況

【問3 貴保険者で実施した各がん検診の検査実施方法及び受診状況についてお答えください。】

[胃がん検診] (「1 胃X線検査」または「2 胃内視鏡検査」について)

ア) 受診対象者の決め方 (問3.1(2) 被保険者)

その他の回答	件数
30歳以上	2
希望者	2
基準がない	2
18歳以上かつ特定健診項目実施	1
30、35、40才以上	1
35歳時	1
39歳以上は事業主検診として各市町村等教育委員会が実施	1
組合員	1

イ) 受診対象者の決め方 (問3.1(2) 被扶養者)

その他の回答	件数
希望者	2
30、35、40才以上	1
34歳以下被扶養配偶者	1
35歳時	1

[大腸がん検診] (「1 便潜血検査」または「2 大腸内視鏡検査」について)

ウ) 受診対象者の決め方 (問3.2(2) 被保険者)

その他の回答	件数
30歳以上	2
希望者	2
基準がない	2
18歳以上かつ特定健診項目実施	1
健診受診者全員	1
組合員	1
年齢制限なし	1

エ) 受診対象者の決め方 (問3.2(2) 被扶養者)

その他の回答	件数
希望者	2
34歳以下被扶養配偶者	1
健診受診者全員	1
年齢制限なし	1

[肺がん検診]（「1 胸部X線検査」について）

オ) 受診対象者の決め方（問3.3（2）被保険者）

その他の回答	件数
全員	4
18歳以上かつ特定健診項目実施	1
30、35、40才以上	1
健診受診者	1
希望者	1
組合員	1

カ) 受診対象者の決め方（問3.3（2）被扶養者）

その他の回答	件数
希望者	2
30、35、40才以上	1
34歳以下被扶養配偶者	1
健診受診者	1

[乳がん検診]（「1 マンモグラフィ検査」について）

キ) 受診対象者の決め方（問3.4（2）被保険者）

その他の回答	件数
希望者	3
18歳以上かつ特定健診項目実施	1
30、35、40才以上	1
40歳以上の偶数年齢の女性	1
マンモグラフィ検査41歳以上 エコー検査40歳以下	1
被保険者全員（女性）	1
基準がない	1
女性の組合員	1

ク) 受診対象者の決め方（問3.4（2）被扶養者）

その他の回答	件数
30、35、40才以上	1
30歳以上34歳以下被扶養配偶者	1
配偶者	1
希望者	1

[子宮頸がん検診]（「1 細胞診（医師による採取）」について）

ケ) 受診対象者の決め方（問3.5（2）被保険者）

その他の回答	件数
希望者	3
女性の組合員	2
35歳以上	2
18歳以上かつ特定健診項目実施	1
20歳以上の偶数年齢の女性	1
30、35、40才以上	1
被保険者全員（女性）	1
基準がない	1

コ) 受診対象者の決め方（問3.5（2）被扶養者）

その他の回答	件数
35歳以上	3
20歳以上34歳以下被扶養配偶者	1
30、35、40才以上	1
希望者	1

3) 一次検診・精密検査の受診勧奨や説明

ア) 一次検診の受診勧奨の方法（問5（2））

その他の回答	件数
民間のがんリスク検査で高リスク判定者へ連絡	1
健診の実施案内に記載	1

4) 一次検診結果の把握状況

ア) 結果を把握していない理由（問6（2））

その他の回答	件数
事業所で結果を把握しているため	1
ドック及び健診結果と合わせて提出はしてもらっているが、がん検診結果のデータ管理はしていない	1

5) がん検診の要精検者の把握状況

ア) 要精検者を把握していない理由（問7（2））

その他の回答	件数
事業所で結果を把握しているため	1

6) 精密検査結果の把握状況

ア) 精密検査結果を把握していない理由 (問8 (2))

その他の回答	件数
事業所で結果を把握しているため	1

7) がん検診の受診者を増やす取組

ア) がん検診の受診者を増やす取組方法 (問10 (2))

その他の回答	件数
健保発行機関誌やHPなどで各種健診の補助について周知している	6
人間ドック・健康診断との同時実施や費用助成	6
受診喚起の通知連絡	3
イントラネットでの周知	2
契約健診機関のオプション検診として選択可能にしている	2
自己負担0円にしている	1
被保険者全員(女性)の婦人科検診自己負担額無料化の検討	1
要精検の方の分析をして、データを示してがん検診、受診の必要性を示す	1
セミナーの実施	1

8) 県・市町村への要望

ア) 県や市町村への要望 (問11)

その他の回答	件数
特になし	8
調査方法をExcelシートで回答し、メールで送れるようにしてほしい	1
土日祝の検診日を増やしてほしい	1
年齢、性別、検査項目、頻度別にがん検診を受けた場合と受けない場合で入院率がどのように違うかなど、検診の必要性をもっとPRして欲しい	1
県内在住・県内在勤の方が受診や参加ができるイベント等あれば情報提供をお願いしたい	1
自治体ごとにがん検診の実施方法等がちがうと思うので、県主導で統一した内容で事業を実施してほしい	1

